

XMAT

操作説明書(マニュアル)

2025年8月

目次

1. はじめに	1
2. 用語集	2
3. サービス概要	3
3.1. サポート対象のブラウザ	3
3.2. サポート対象のファイル形式	3
3.3. 機械翻訳エンジン	3
4. ID の種類	6
5. ログイン画面	7
5.1. サービス概要	7
6. ダッシュボード画面	8
6.1. サービス概要	8
7. Quick MT テキスト翻訳	9
7.1. サービス概要	9
8. Quick MT ドキュメント翻訳	12
8.1. サービス概要	12
8.2. 機械翻訳の処理にかかる時間について	15
8.3. ステータスが「処理完了 (エラーあり)」となる場合	15
(参考) 機械翻訳エンジンの設定項目	16
9. Quick PE	18
9.1. サービス概要	18
9.2. QuickPE の機能	20
9.2.1. エディター画面	20
9.3. プロジェクト管理者向け説明	33
9.3.1. グループ管理	35
9.3.2. プロジェクト管理	38
9.3.3. スタイルガイド	49
9.3.4. 用語集	53
9.3.5. NG ワード集	56
10. カスタマイズ (LAC)	61
10.1. 抽出データ	61
10.1.1. アライン処理とは	63
10.1.2. LeftoverTM と判定基準	64
10.2. ストックデータ	64
10.2.1. ドメイン、ドキュメントタイプ、タグについて	67
10.3. 言語資産	68

10.3.1.	言語資産の登録方法とインポート区分.....	70
10.4.	追加学習モデル.....	77
10.4.1.	追加学習モデル一覧画面の見方	78
10.4.2.	追加学習モデルのステータス	79
10.4.3.	追加学習モデルの削除	80
10.4.4.	追加学習モデルのモデル評価	80
10.4.5.	追加学習モデル登録画面	81
10.4.6.	追加学習モデル登録の設定項目	82
10.4.7.	みんなの自動翻訳@KI の種別について	85
10.4.8.	追加学習モデルの追加	85
10.4.9.	モデル数の上限について	85
10.5.	用語集設定モデル.....	86
10.5.1.	用語集設定モデル一覧画面の見方	87
10.5.2.	用語集設定モデルのステータス	89
10.5.3.	用語集設定モデルの削除	90
10.5.4.	用語集設定モデルのモデル評価	90
10.5.5.	用語集設定モデル登録画面	91
10.5.6.	みんなの自動翻訳@KI の種別について	92
10.5.7.	用語集内で重複する用語について	92
10.5.8.	モデル数の上限について	93
付録	正規表現のサンプル	94

[illegible]

1. はじめに

XMATは、誰でも簡単かつ安心して機械翻訳(AI翻訳)を利用できる以下のサービスです。詳細についてはサービスご紹介ページ(<https://ldxlab.io/xmat/>)ならびに各ページのユーザーヘルプをご参照ください。画面のUIはユーザー(アカウント)ごとに英語または日本語を選択できます。

2. 用語集

本書で使用する用語について、以下に示します。

表 2-1 用語集

用語	説明
MT	機械翻訳 (Machine Translation) の略。
Quick MT	本システムにおけるテキスト翻訳およびドキュメント翻訳の機能。
Quick PE	本システムにおけるポストエディット機能。
ポストエディット	Post-Editing (PE)。機械翻訳後の翻訳結果を人が修正すること。
プロジェクト管理者	自分が属する組織に登録されているグループの一覧を参照でき、スタイルガイド、用語集、NGワードの管理ができるユーザー。
リングスト	翻訳者とチェッカーの総称。
翻訳者	PEにおいて各ファイルのポストエディットを担当するユーザー。
チェッカー	PEにおいて翻訳者がポストエディットしたファイルのチェックを担当するユーザー。
セグメント	Quick PEのエディター画面に展開された原文/訳文の文節。
ハイフネーション	長い単語が行末で折り返す際に付加される記号。“-”と表記される。
スタイルガイド	文章上の表現や表記に関するルールを定めたもの。スタイルガイドにより、作業者間の不統一を抑止し、訳語の統一、一貫性を確保することが可能。
用語集	利用者ごとに使用することが規定されている用語を定めたもの。用語集により、作業者間の不統一を抑止し、訳語の統一、一貫性を確保することが可能。
翻訳メモリー	過去に翻訳した対訳データが登録されたファイル。
NGワード	使用を非推奨とする用語を定めたもの。
グループ管理	翻訳結果の修正を複数の担当者が行うために必要な情報を定める機能。グループ共有された利用者について、共同で翻訳結果修正を可能とする。
プロジェクト管理	翻訳結果の修正に必要な情報を設定する機能。エディター画面の検証機能で参照する情報の設定を可能とする。
リバース一致率	訳文を逆翻訳した結果と原文とのギャップ (差異) を数値化したもの。訳抜けや誤訳があるとリバース一致率が極端に低くなる特性を利用して、これらのエラーを検出する目的で確認することを可能とする。
正規表現	「検索」や「置換」において、指定する文字列をパターン化して表現する方法。
訳揺れ	同じ原文に対して異なる翻訳結果が存在すること。
TU	文と訳文のペア (TU=Translation Unit)
TM	(Translation Memory) 原文と訳文がセットになったデータ。翻訳メモリー (Translation Memory)
LeftoverTM	TMに適さないデータ。

3. サービス概要

本書では、XMATの機能についてご説明します。XMATの機能は下記の通りです。

- **Quick MT テキスト翻訳**:テキスト翻訳機能を利用できます。
- **Quick MT ドキュメント翻訳**:ファイル翻訳機能を利用できます。
- **Quick PE**:ブラウザ上で翻訳結果を編集(以下、ポストエディット)することが可能です。自動検証機能を活用することで、用語集の適用や、誤訳・訳抜け個所の類推、スタイルなどの自動検証を行うこともできます。
- **カスタマイズ(LAC:Language Asset Creator)**:AIを活用して、言語資産およびカスタム機械翻訳モデルの作成を支援します。

3.1. サポート対象のブラウザ

本システムは以下のブラウザをサポートしております。

- Windows OS: Microsoft Edge (Chromiumベース), Google Chrome, Mozilla Firefox*
- Mac OS: Google Chrome

* Mozilla Firefoxについては、Quick PEエディター画面での一部の動作に制約があります。Mozilla Firefoxブラウザをお使いの場合、編集エリアにおいて単語をダブルクリックで選択した場合、キーボードの[Delete]ボタンで削除できないという制約があります。そのような場合は、単語の前後にカーソルを合わせて[Delete]または[Back space]ボタンで削除するなどの代替手段で編集してください。

3.2. サポート対象のファイル形式

- Quick MTドキュメント翻訳:txt / docx / xlsx / pptx / pdf / html / htm / xml / tiff / tif / jpg / jpeg / png / bmp / srt / csv / tsv
- Quick PE:xlf / xliff / sdxliff / mqxliff / txt / docx / xlsx / pptx / pdf / html / htm / xml / tiff / tif / jpg / jpeg / png / bmp / srt / csv / tsv

3.3. 機械翻訳エンジン

- みんなの自動翻訳@KI(商用版)powered by NICT
- Google Translate
- DeepL
- Amazon Translate
- Microsoft translator
- SAP Translation Hub
- Papago Translation
- Azure OpenAI Service
- OpenAI

みんなの自動翻訳@KIの汎用モデルの種別について

みんなの自動翻訳@KIの汎用モデル(エンジンの種別と言語ペアの組合せ)には以下8つの種別が存在します。種別ごとの特性は以下のとおりですので、目的に応じて選択してください。

- **汎用NT**: 分野を問わず活用できるエンジンです。
- **特許NT**: 特許翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **金融サービス**: 金融サービス関連の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **金融NT (IR/適時開示)**: 金融関連のうちIR/適時開示情報の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **法令契約NT**: 法令契約関連の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **サイエンス**: 生物・医学分野を中心とした学術論文などに適した分野の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **特許審決等**: 特許関連の中でも特許出願の拒絶理由通知書や審決情報等の翻訳向けに構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **ニュース**: 新語、新トピックや時事の話題を含むニュースの翻訳向けに構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。

注	利用できる言語ペアは種別ごとに異なります。モデルは随時アップデートされるため、今後、利用できる言語ペアが増減する可能性があります。
----------	---

OpenAIとAzure OpenAI Serviceエンジンについて

OpenAI、Azure OpenAI Serviceエンジンは以下7つの機能があります。それぞれの特性については以下のとおりですので、目的に応じて選択してください。

- **文法上の修正**: 文章の文法ミスや誤字脱字を自動的に修正する機能です。
- **要約**: 長文の文章や複雑なレポートを短時間で要約する機能です。
- **コピーライティング**: マーケティングや広告に使用するキャッチコピーやコンテンツを生成する機能です。
- **プレスリリース**: 新製品やサービスの発表時に必要なプレスリリースの作成を支援する機能です。
- **翻訳**: Azure OpenAI Serviceエンジンを利用した翻訳ができます。(日本語と英語のみ)
- **敬体**: 文章を敬体(ですます調)に自動変換する機能です。
- **常体**: 文章を常体(である調)に自動変換する機能です。

OpenAI

- 「Azure OpenAI Service」と同じAIモデルですが、「OpenAI」は海外で翻訳処理が行われます。
- また、OpenAIモデル内部の微調整が継続的にされており、翻訳結果が変化する可能性があります。
- OpenAIモデルの微調整が行われる場合、「Azure OpenAI Service」への反映タイミングが「OpenAI」より遅れることがありますので、常に最新バージョンに調整されたOpenAIモデルのご利用を希望される場合は、「OpenAI」のご利用が推奨されます。

Azure OpenAI Service

- 国内で翻訳処理が行われますので、セキュリティ面では「Azure OpenAI Service」のご利用が推奨されます。
- また、海外で翻訳処理が行われる「OpenAI」と比べて、「Azure OpenAI Service」の方が翻訳結果が得られるまでの時間が短い傾向があります。

用途や目的に応じて、最適なエンジンを選択してご活用ください。

4. IDの種類

本システムのログインで使用するIDには5種類あり、それぞれのIDで利用可能な機能の範囲が異なります。本システムのID（ユーザー）の種類と各IDで利用可能な機能について示します。

なお、グループ管理、プロジェクト管理、スタイルガイド管理、用語集管理、NG集管理の機能はQuick PEに含まれる機能です。

表 4-1 IDと利用可能な機能

○: 利用可能

サービス	機能	権限の種類			
		組織管理者	プロジェクト管理者	リンギスト	LAC管理者
Quick MT	Quick MTテキスト翻訳	○ (※1)	○ (※1)	○ (※1)	
	Quick MTドキュメント翻訳	○ (※1)	○ (※1)	○ (※1)	
Quick PE	翻訳結果修正(ポストエディット/チェック)		○	○	
	グループ管理		○		
	プロジェクト管理		○		
	スタイルガイド管理		○		
	用語集管理		○		
	NGワード集管理		○		
LAC (カスタマイズ)	カスタム機械翻訳モデル参照	○	○	○	○
	カスタム機械翻訳モデル登録 / 変更 / 削除	○ (※2)	○ (※2)	○ (※2)	○
	言語資産参照	○	○	○	○
	言語資産登録 / 変更 / 削除(データ抽出/アライン、ストックデータのインポートを含む)	○ (※2)	○ (※2)	○ (※2)	○
	サービス利用設定	○ (※2)	○ (※2)	○ (※2)	○
組織管理	組織詳細の変更		○		
	請求 / 契約情報管理		○		
アカウント管理	アカウント一覧参照 / 登録 / 変更 / 削除		○		

(※1) Quick MTはアカウントの権限に関係なく同じ機能をご利用いただけます。

(※2) 当該の機能はオプション権限「LAC管理者」が付与されている場合のみご利用いただけます。

5. ログイン画面

5.1. サービス概要

XMAT利用時には、ログイン画面からのログインを行います。ログイン画面のURLは<https://services.xmat.work/>です。ログインすることで翻訳機能が使用できます。

図 5-1 ログイン画面

操作手順は以下のとおりです。

- ① システム利用者IDを入力します。
- ② システム利用者のパスワードを入力します。
- ③ [Log In]ボタンをクリックします。

注	パスワードを忘れた際は「パスワードを忘れた方はこちら」から再設定をしてください。 パスワードは以下の要件をすべて満たす必要があります。 ● 文字種: 半角の英数字と記号(!#\$%&'()*=~-^+*_ など) ● 長さ: 8文字以上32文字以下 ● 内容: 半角の英字(大文字と小文字)、数字、記号をそれぞれ1つ以上含むこと
---	--

6. ダッシュボード画面

6.1. サービス概要

ログイン完了後は、XMATのシステム利用者向けダッシュボードが表示されます。

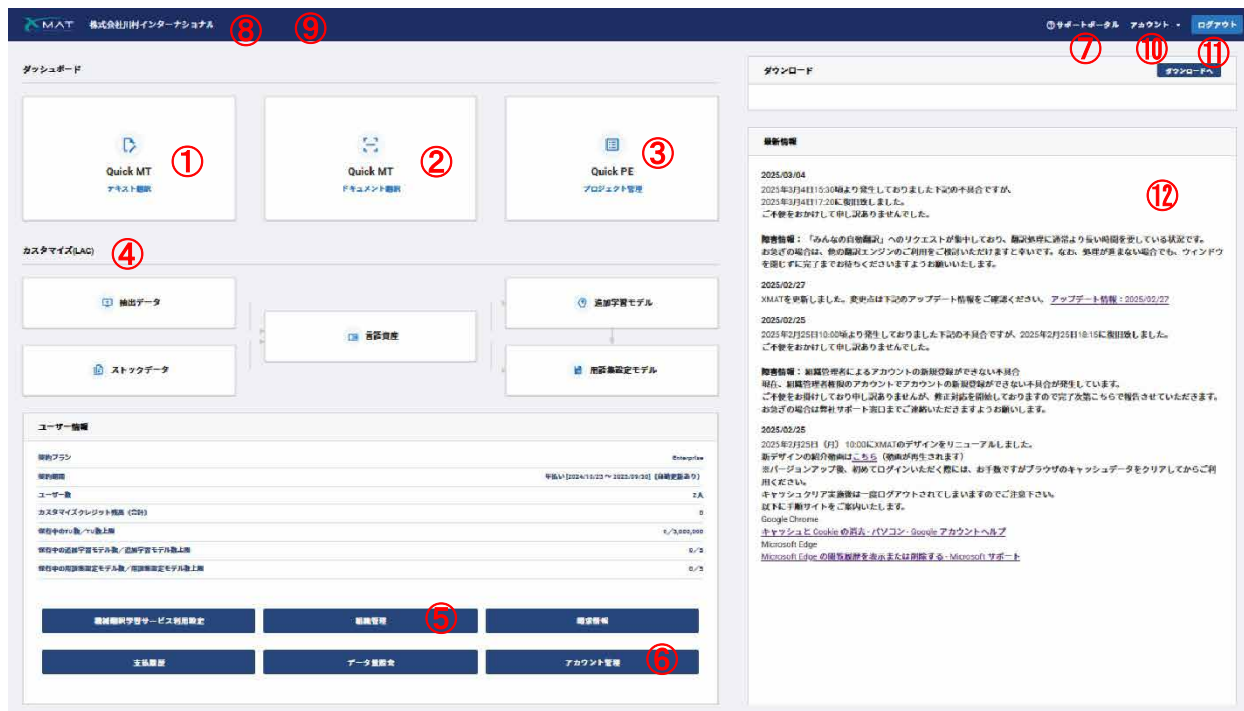


図 6-1 ダッシュボード画面

- ① Quick MTテキスト翻訳を使用します。
- ② Quick MTドキュメント翻訳を使用します。
- ③ Quick PEを使用します。
- ④ カスタマイズ(LAC)を使用します。
- ⑤ 組織の情報が確認できます。(組織管理者権限ユーザーのみ)
- ⑥ アカウントを管理できます。(組織管理者権限ユーザーのみ)
- ⑦ サポートポータルを参照できます。
- ⑧ 組織名が表示されます。
- ⑨ アカウント名が表示されます。
- ⑩ アカウント情報の変更ができます。
- ⑪ ログアウトできます。
- ⑫ 最新情報が確認できます。

7. Quick MTテキスト翻訳

7.1. サービス概要

ダッシュボード画面の[Quick MTテキスト翻訳]のタイルからご利用ください。

Quick MTテキスト翻訳は以下のようなご要望にお応えします。

- ・ 入力フィールドに入力（タイピング、またはコピー＆ペースト）したテキストを気軽に機械翻訳したい。
- ・ 複数の機械翻訳エンジンまたは言語ペアによる翻訳結果（訳文）を1つの画面内で比較したい。
- ・ システム上でのポストエディットは不要で、機械翻訳した結果さえ入手できればよい。

Quick MTテキスト翻訳の**文字数上限は、5,000文字**ですのでご注意ください。

（「OpenAI」「Azure OpenAI Service」は3,000文字まで）

操作手順は以下のとおりです。

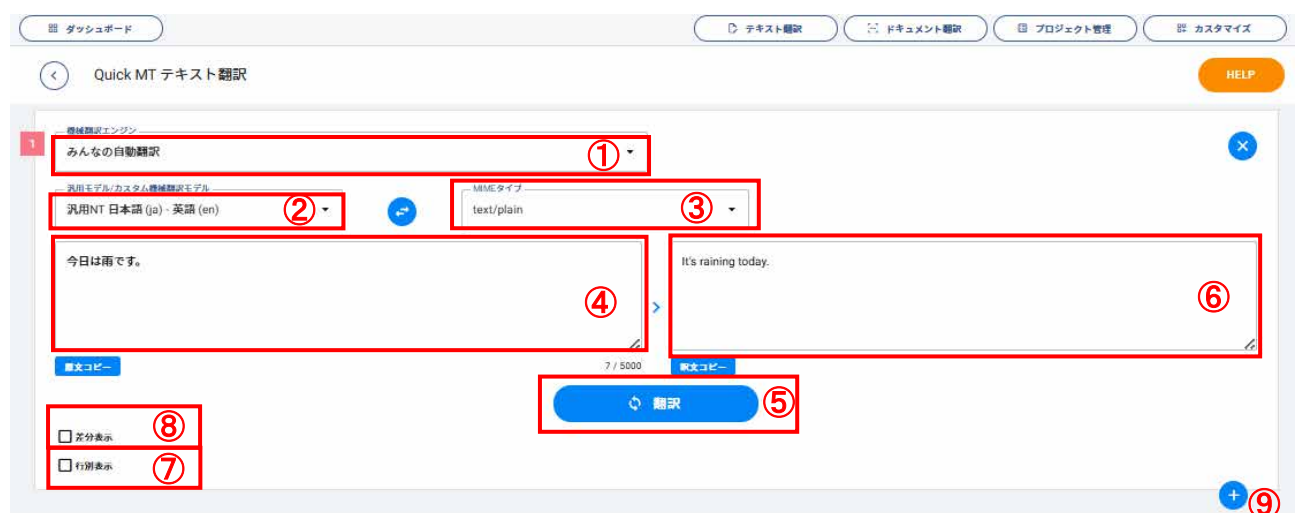


図 7-1 Quick MTテキスト翻訳画面

- ① 利用する機械翻訳エンジンを選択します。
- ② 選択したエンジンに応じて言語ペアとモデルを選択します。
- ③ 左側の入力エリアに原文となるテキストをタイピング、またはコピー＆ペーストで入力します。
- ④ [翻訳] ボタンをクリックします。
- ⑤ 右側の表示エリアに機械翻訳の結果（訳文）が表示されます。なお、**翻訳実行中に他の画面へ移動すると翻訳処理がリセット**されてしまいますのでご注意ください。
- ⑥ 翻訳後に [行別表示] をチェックONすると、改行ごとに区切って原文と訳文が表示されます。対訳形式で表示したい場合にご利用ください。
- ⑦ MIMEタイプを選択します。機械翻訳エンジンでプレーンテキスト(text/plain)として翻訳処理するか、またはタグ(HTMLタグなど)を含むテキスト(text/html)として翻訳処理するか指定します。初期値(推奨)は「text/plain」(プレーンテキスト)です。
- ⑧ 翻訳後に [差分表示] をチェックONにすると、原文と訳文の差分を表示されます。

図 7-2 行別表示をしていない状態

行別表示クリック後

図 7-3 行別表示をしている状態

- ⑨ 機械翻訳エンジン、言語ペア、標準/オプション項目はエリアごとに異なる設定で処理したい場合は[+] ボタンをクリックします。

図 7-4 翻訳エリアを追加した画面(赤枠部分が追加される)

OpenAIとAzure OpenAI Serviceエンジンについて

OpenAIとAzure OpenAI Serviceエンジンは以下7つの機能があります。それぞれの特性については以下のとおりですので、目的に応じて選択してください。

- **翻訳**: AIエンジンを利用した翻訳ができます。
- **文法上の修正**: 文章の文法ミスや誤字脱字を自動的に修正する機能です。
- **要約**: 長文の文章や複雑なレポートを短時間で要約する機能です。
- **コピーライティング**: マーケティングや広告に使用するキャッチコピーやコンテンツを生成する機能です。
- **プレスリリース**: 新製品やサービスの発表時に必要なプレスリリースの作成を支援する機能です。
- **敬体**: 文章を敬体(ですます調)に自動変換する機能です。
- **常体**: 文章を常体(である調)に自動変換する機能です。
- **任意の指示を各行に実行**: 文章を行ごとに区切り、それぞれに指定した指示を実行します。
- **任意の指示を文全体に実行**: 文章全体をまとめて処理し、指定した指示を実行します。

差分表示にチェックを入れることで変更箇所を確認することができます。

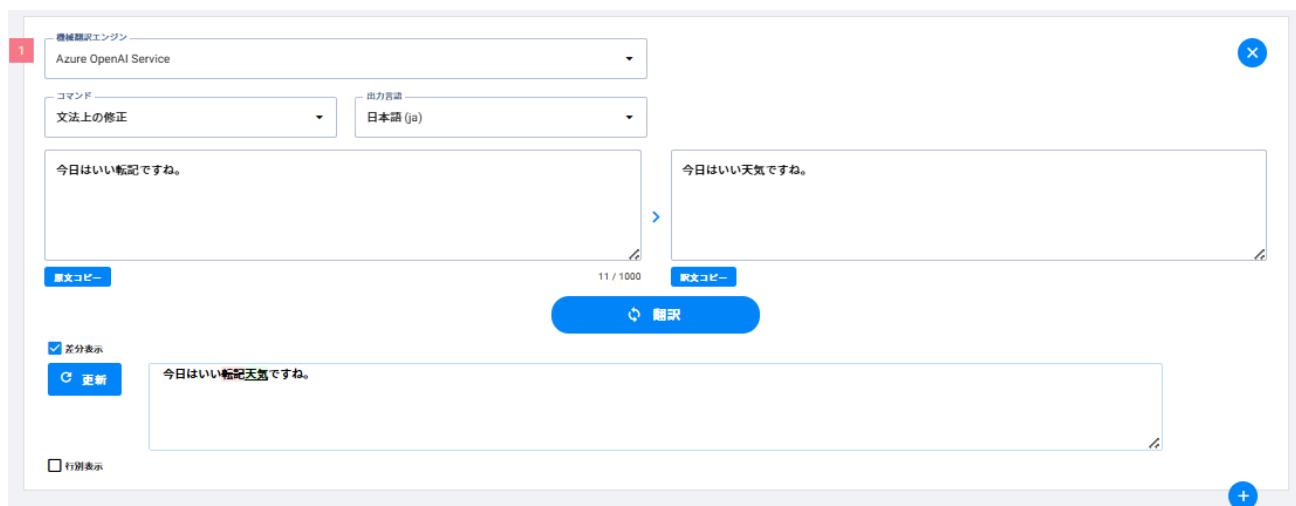


図 7-5 Azure OpenAI Serviceで文法上の修正を行った結果

差分表示にチェックを入れることで変更箇所を確認することができます。

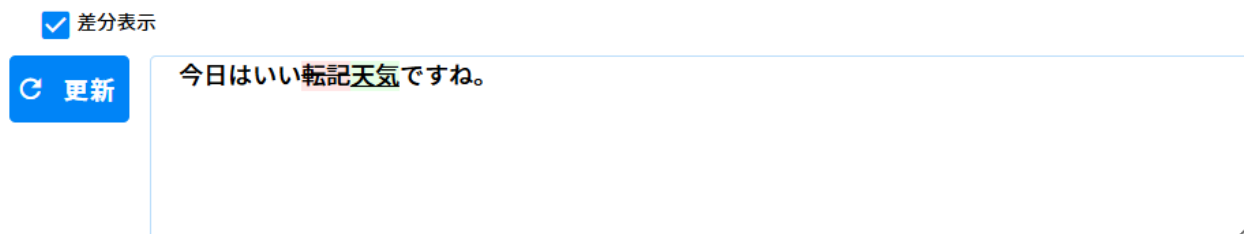


図 7-6 差分表示画面

注	翻訳完了後に他の画面へ移動やブラウザをシャットダウンすると翻訳処理がリセットされてしまいますのでご注意ください。
---	--

8. Quick MTドキュメント翻訳

8.1. サービス概要

ダッシュボード画面の[Quick MTドキュメント翻訳]のタイルからご利用ください。

Quick MTドキュメント翻訳は以下のようなご要望にお応えします。

- ファイル単位でまとめてワンクリックで簡単に機械翻訳を実行したい。
- PDFファイルや画像ファイルに含まれるテキスト情報を抽出して簡単に機械翻訳したい。
- アップロードしたデータ(原文ファイル)をできるだけサーバーに残したくない。
- システム上でのポストエディットは不要で、機械翻訳した結果さえ入手できればよい。

翻訳対象ファイルには以下の制約がありますのでご注意ください。

- サポートしているファイル形式
 - ファイル形式: docx / xlsx / pptx / pdf / html / htm / xml / tiff / tif / jpg / jpeg / png / bmp / srt / csv / tsv
- ファイルサイズ/文字数: 1ファイルあたり100MBまでのファイルを複数アップロード可能です。1ファイルに含まれる文字数は500,000文字以下としてください。500,000文字を超えた場合はファイルのアップロード後、機械翻訳エンジンによる処理で失敗してエラーメッセージが表示されます。この文字数のカウントには空白が含まれます。また、言語に依存しません("こんにちは"も"HELLO"も5文字とカウントされます)。
- ファイル数: 1回に翻訳処理できるファイル数の上限は、処理が完了したファイルとの合計で30です。合計30ファイル以下となるように [原文ファイル一覧] のファイルを一部削除するか、一度サービスメニュー画面に戻り、再度 [Quick MT ドキュメント翻訳] タイルをクリックしてやり直してください。

PDFファイルの機械翻訳について

PDFファイルの場合、含まれているテキスト情報のみを抽出して機械翻訳を実行します。抽出の際にOCR(光学的文字認識)を使用するかどうかを指定することができますが、PDFファイルの場合はOCRを使用せずにテキスト情報を抽出するほうが精度の良い訳文を得られる傾向があるため、[OCR使用] チェックボックスはオフに設定することをお奨めします。機械翻訳した結果は [出力ファイル形式] で指定したファイル形式(docx、xlsx、pptx)で出力されます。

注	OCRを使用するとMicrosoft Word(docx)ファイルに変換した場合にページごとに文が分断されて処理されます。一方、OCRを使用せずにMicrosoft Wordファイルに変換した場合、原文ファイル(PDF)内のテキストデータのつながりをそのまま再現するよう処理されますので、大抵のケースではページまたぎの文も途切れずに訳文に反映されます。<u>ただし、原文ファイルの内容によっては [OCR使用] をオンに設定するほうが良い機械翻訳結果が得られる場合もあります。必要に応じてオン/オフを切り替え、出力された訳文を比較していただくことをお奨めします。</u> 例えば、多数の書式が含まれている原文ファイル(論文など)の場合は [OCR使用] をオンにすると内部の処理でエラーになるケースが報告されていますので、[OCR使用] をオフにしてお試しください。
----------	---

- PDF/マルチページTIFFに関する制約:[OCR使用] の設定に応じて以下の制約があります。上限を超えるファイルはアップロード後の機械翻訳エンジンによる処理で失敗してエラーメッセージが表示されます。
 - [OCR使用] オフ(OCRを使用しない): 1ファイルあたり500ページまでのファイルをアップロード可能です。
 - [OCR使用] オン(OCRを使用する): 1ファイルあたり、A4サイズ換算で200ページまでのファイルをアップロード可能です。PDF/TIFFファイルの実際のページ数とは異なりますのでご注意ください。
- ファイルがパスワードで保護されていると処理エラーとなります。アップロードする前にパスワードの保護を解除してください。

操作手順は以下のとおりです。

The screenshot shows the 'Quick MT ドキュメント翻訳' (Quick MT Document Translation) interface. It includes a top navigation bar with links like 'ダッシュボード', 'テキスト翻訳', 'ドキュメント翻訳', 'プロジェクト管理', and 'カスタマイズ'. The main area is titled 'Quick MT ドキュメント翻訳' and contains several sections:

- 機械翻訳エンジン (Mechanical Translation Engine):** A dropdown menu labeled 'みんなの自動翻訳' (Everyone's Auto-Translate) is highlighted with a red box and a circled '1'.
- 設定 (Settings):** A section containing a language pair dropdown (currently '汎用NT 日本語 (ja) - 英語 (en)'), a MIME type dropdown (currently 'text/plain'), and several radio button options for '書式情報(太字・斜体等)を優先' (Prioritize formatting), '数値だけのセグメントを翻訳から除外' (Exclude numeric-only segments), 'ハイフネーションを除去' (Remove hyphenation), '対訳形式で出力(Word/Excel/Text/SRT)' (Output in translation format), and '書式情報もまとめてMTで処理' (Process formatting information together with MT). This entire section is highlighted with a red box and a circled '2'.
- 原文ファイル (Source File):** A large area for uploading files, with a red box and a circled '3' around the upload instructions.
- 原文ファイル一覧 (Source File List):** A table showing the list of uploaded files. The first row, containing 'sample.txt', is highlighted with a red box and a circled '4'. The table has columns for '原文ファイル名' (Source File Name), 'OCR使用 (有)' (Use OCR), '出力ファイル形式' (Output File Format), and '削除' (Delete).
- 翻訳開始 (Start Translation):** A large blue button at the bottom, highlighted with a red box and a circled '5'.

図 8-1 Quick MTドキュメント翻訳画面

- ① 利用する機械翻訳エンジンを選択します。
- ② 選択したエンジンに応じてモデル、言語ペア、オプション項目を設定します。
- ③ 翻訳するファイル(原文ファイル)を枠内にドラッグ & ドロップ、または枠内をクリックしてファイル参照ダイアログから選択します。複数のファイルを指定して一括で処理できます。
- ④ 選択したファイルが [原文ファイル一覧] に追加されます。
- ⑤ [翻訳開始] ボタンをクリックすると機械翻訳の処理が開始されます。なお、翻訳実行中に他の画面へ移動すると翻訳処理がリセットされてしまいますのでご注意ください。

注	機械翻訳エンジンや言語ペアによって、言語方向の反転に対応していない場合があります。
---	---

ヒント	反転アイコン()をクリックすると言語方向を反転できます。
-----	---

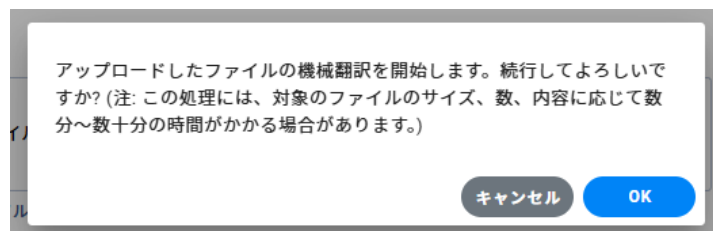


図 8-2 Quick MTドキュメント翻訳画面(ポップアップ1)

- ⑥ 翻訳開始ボタンをクリックすると、上記表示がされるので、問題なければ[OK]をクリックします。

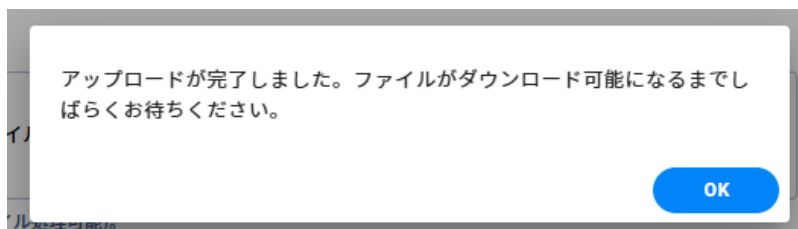


図 8-3 Quick MTドキュメント翻訳画面(ポップアップ2)

- ⑦ アップロードが完了すると上記表示がされるので、問題なければ[OK]をクリックします。

訳文ファイル一覧					
原文ファイル名	機械翻訳エンジン	設定	ステータス	ダウンロード	削除
sample.docx	汎用NT 	汎用モデル/カスタム機械翻訳モデル MIMEタイプ 書式情報(太字・斜体等)を優先 数値だけのセグメントを翻訳から除外 ハイフネーションを除去 対訳形式で出力(Word/Excel/Text/SRT) 書式情報もまとめてMTで処理	汎用NT 日本語 (ja) - 英語 (en) text/plain しない しない しない	機械翻訳中 33% ⑧	
sample2.txt	汎用NT 	汎用モデル/カスタム機械翻訳モデル MIMEタイプ 書式情報(太字・斜体等)を優先 数値だけのセグメントを翻訳から除外 ハイフネーションを除去 対訳形式で出力(Word/Excel/Text/SRT) 書式情報もまとめてMTで処理	汎用NT 日本語 (ja) - 英語 (en) text/plain しない しない しない	処理完了 ⑨	 ⑩ 

図 8-4 原文ファイル一覧

- ⑧ 機械翻訳の処理中は、「ステータス」画面に文字計算中、機械翻訳中と順に表示がされ、進捗状況を確認することができます。
- ⑨ 機械翻訳の処理が完了するとステータスが[処理完了]になり、  アイコンが表示されますので、クリックで翻訳された結果のファイルをダウンロードできます。

⑩ 機翻訳された結果のファイルを削除する際には、 アイコンをクリックしてください。

⑪ 一括処理ボタン横の  アイコン及び  アイコンをクリックすると複数のファイルを一括で処理することができます。

注	<u>アップロード後に他の画面へ移動やブラウザをシャットダウンすると翻訳処理がリセットされてしまいますのでご注意ください。</u> アップロード開始後、新規の翻訳ファイルを追加して処理することが可能です。 ファイルを削除したい場合はアップロード中、処理中でも  アイコンから削除が可能です。
----------	---

注	<u>・翻訳処理が完了した後、他の画面に移動すると訳文ファイルにアクセスできなくなりますので、訳文ファイルは翻訳処理が完了次第、早めにダウンロードしておくことをお奨めします。</u> <u>・アップロードした原文ファイルおよび訳文ファイルは、翻訳処理が完了してダウンロード可能になった後24時間後に自動的に削除されます。</u>
----------	--

8.2. 機械翻訳の処理にかかる時間について

機械翻訳の処理(ファイルのアップロード、テキスト情報の抽出、および機械翻訳)には一定の時間を要しますのでご了承ください。この時間は、処理対象のファイルの形式、サイズ、内容、処理時点のシステムの負荷状況、ネットワークの通信状況によって異なります。

8.3. ステータスが「処理完了 (エラーあり)」となる場合

原文ファイルの内容によっては機械翻訳処理が一部失敗し、ステータスが「処理完了 (エラーあり)」となる場合があります。エラーにならず処理が完了した部分の訳文は [ダウンロード] ボタンより取得できます。エラーになった部分については、[エラー詳細] ボタンからログファイルをダウンロードできますので、エラーの原因の把握や、お問い合わせの際の参考にしてください。

(参考)機械翻訳エンジンの設定項目

翻訳実行時、以下のオプション項目を設定することができます。各オプションの設定を切り替えて、出力結果を確認(比較)していただき、最適と思われる設定を選択してください。

オプション項目(初期値)

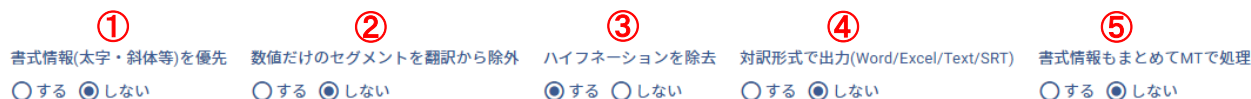


図 8-8 オプション項目

- ① **書式情報(太字・斜体等)を優先**: 機械翻訳での処理時に書式情報(インラインタグとその位置)を極力保持するかどうか指定します。
- ② **数値だけのセグメントを翻訳から除外**: セグメント内の原文が数字だけで構成されている場合("1", "100", "100.00", "1,000.00", "-1,000.00"など)に、そのセグメントの翻訳を実行するかどうかを指定します。初期値は「しない」(翻訳から除外しない)です。「する」(翻訳から除外する)を指定すると、該当するセグメントでは原文が訳文としてそのまま採用されます。たとえば、数値のみが記載された表を含むWordファイルを翻訳する場合は「する」に設定すると有効です。
- ③ **ハイフネーションを除去**: 原文にて、長い単語が行末で折り返す際に記号が付加されている個所(ハイフネーション)がある場合、この記号を除去した上で1単語として機械翻訳処理を実行するかどうか指定します。初期値(推奨)は「する」(ハイフネーションを除去する)です。
- ④ **対訳形式で出力 (Word/Excel)**: 原文、訳文を対訳形式で出力します。
- ⑤ **書式情報もまとめてMTで処理**: 原文に書式情報(インラインタグとその位置)が含まれる場合に、機械翻訳エンジンの処理能力を最大限活用して、原文と書式情報をまとめて機械翻訳するかどうかを指定します。初期値は「しない」です。「する」を指定すると、各エンジンの性能の範囲内で原文の意味をタグで分断することなく適切に機械翻訳が実行され、訳文上でタグの位置が適切に再現されます。タグの破損などにより、まとめての機械翻訳が正常終了しなかった場合は、もう1つのオプション「書式情報を優先」が参照されて機械翻訳が実行されますので、機械翻訳自体がエラーになることはありません。※「する」を指定するとタグも文字数としてカウントされるため、原文に含まれるタグの数によっては1ファイルあたりの文字数上限(500,000文字)を超過してしまう場合があります。そのような場合は「しない」を選択してください。

OpenAIとAzure OpenAI Serviceエンジンについて

OpenAIとAzure OpenAI Serviceエンジンは以下7つの機能があります。それぞれの特性については以下のとおりですので、目的に応じて選択してください。

- **翻訳:** AIエンジンを利用した翻訳ができます。(日本語と英語のみ)
- **文法上の修正:** 文章の文法ミスや誤字脱字を自動的に修正する機能です。
- **敬体:** 文章を敬体(ですます調)に自動変換する機能です。
- **常体:** 文章を常体(である調)に自動変換する機能です。
- **任意の指示を各行に実行:** 文章を行ごとに区切り、それぞれに指定した指示を実行します。
- **任意の指示を文全体に実行:** 文全体を指定した指示を実行します。

9. Quick PE

9.1. サービス概要

Quick PEは以下の要望に応えます。

1. 翻訳結果をシステム上で確認・修正したい。
2. スタイルガイド、用語集、NGワード集、翻訳メモリーを設定し、機械翻訳結果のポストエディットを行いたい。
3. 複数名で翻訳作業を行いたい

✓ サポートしているファイル形式と拡張子

テキストファイル:txt
Microsoft Officeファイル: docx、xlsx、pptx
PDFファイル:pdf
HTML/XMLファイル:html、htm、xml
画像ファイル:tiff、tif、jpg、jpeg、png、bmp
字幕ファイル:srt
カンマ/タブ区切りファイル:csv、tsv

✓ ファイルサイズ/文字数の制約

1ファイルあたり100MBまでのファイルを複数アップロード可能。
ファイル数の制限はなし。
1ファイルに含まれる文字数は150,000文字以下。
150,000文字を超える場合はアップロード後に処理が失敗し、エラーメッセージが表示される。
空白も文字数に含まれる。
言語に依存しない("こんにちは"も"HELLO"も5文字とカウントされる)。

注	最大150,000(15万)文字のファイルをアップロードできますが、推奨値は最大 50,000(5万)文字 となりますのでご了承ください。推奨文字数を超えるファイルをアップロードした場合、インポートおよび機械翻訳の処理に相応の時間を要します。また、システムの負荷状況によっては処理のパフォーマンスが低下する場合があります。
---	--

注	Microsoft Officeファイルでは、強制改行(Shift+Enter)が多数含まれているファイルが処理エラーとなることがあります。エラーになる場合は、改行(Enter)に置換して再度お試しください。また、一文が非常に長い場合もエラーになることがあります。適宜、改行を入れるか文を区切ってお試ください。
---	---

Quick PEを使用する場合にはプロジェクト管理者がグループ管理及びプロジェクト管理の設定をする必要があります。また、必要に応じてスタイルガイド等の参照情報を設定することができます。詳細は以下を参照ください。

- グループ管理 (P35)

グループを管理するものであり、グループ名の設定、プロジェクト管理者およびリンギストの追加/編集を設定します。また、必要に応じてスタイルガイド、用語集、NGワード集、翻訳メモリーの設定を行うことができます。

- プロジェクト管理 (P38)

プロジェクトを管理するものであり、グループ名の指定、プロジェクト名の設定、翻訳者、チェッカーの設定を行います。また、必要に応じてスタイルガイド、用語集、NGワード集、翻訳メモリーの設定を行うことができます。

- スタイルガイド (P49)

原文および訳文に対するスタイルを定めるものであり、エディター画面で「検証」することによりルールを逸脱した箇所を検出できます。

- 用語集管理 (P53)

使用することが規定されている用語（原文と訳文のペア）を定めるものであり、エディター画面で「検証」、「再翻訳」することにより参照できます。

- NGワード集 (P56)

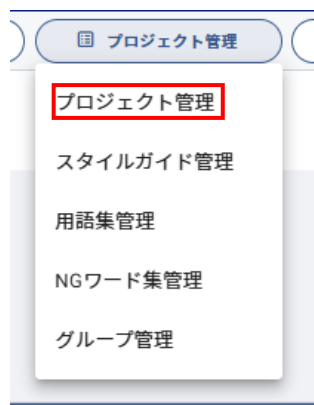
使用を非推奨とする用語（NGワード）を定めるものであり、エディター画面で「検証」、「再翻訳」することにより該当箇所を検出できます。

9.2. QuickPEの機能

9.2.1. エディター画面

PEの編集作業はエディター画面で行います。プロジェクト一覧から編集作業を実施するプロジェクト管理を選択するとエディター画面を開くことができます。

プロジェクト管理ボタンからプロジェクト管理をクリックします。



プロジェクト一覧から編集作業を実施するプロジェクト管理を選択するとエディター画面を開くことができます。

A screenshot of the 'Project List' table in the QuickPE editor. The table has columns for '#', 'プロジェクト名' (Project Name), 'グループ名' (Group Name), 'ファイル名' (File Name), 'インポート状況' (Import Status), '作業状況' (Work Status), '更新日' (Update Date), 'ステータス' (Status), and '設定' (Settings). There are two rows of data. The first row has 'サンプル2' as the project name and '開発環境テスト.txt' as the file name. The second row has 'サンプル' as the project name and '2025.txt' as the file name. Both file names are highlighted with red rectangular boxes. Above the table, there is a search bar labeled '検索条件' and a '新規登録' (New Registration) button. Below the search bar, there are controls for '表示件数' (Display Count) set to 20, '1/1ページ' (1/1 page), and a '移動' (Move) button. The table data is as follows:

#	プロジェクト名	グループ名	ファイル名	インポート状況	作業状況	更新日	ステータス	設定
1	サンプル2	sample2025	開発環境テスト.txt	100%	0%	2025/03/10 09:37	編集中	⚙️
2	サンプル	sample2025	2025.txt	100%	0%	2025/03/10 09:30	編集中	⚙️

図 9-1 エディター画面の表示方法

9.2.1.1. 名称

エディター画面は大きく3つのペインに分かれています。



図 9-2 エディター画面

- ① コントロールバー(画面上部): エディター画面でユーザーが行う処理ごとのボタンが並んだペインです。
- ② 編集エリア(画面中央): 作業対象ファイルの編集を行うペインです。
- ③ リファレンスペイン(画面右部): 参考訳、用語フィールド、検証結果などの参照情報が表示されるペインです。
- ④ ※ 訳語検索結果(画面下部): 翻訳メモリー内の検索結果が表示されるペインです。

9.2.1.2. 基本的なワークフロー



図 9-3 エディター画面(原文修正時)

- 作業を実施するファイル名をクリックすると、エディター画面の編集エリアの[原文]列に日本語原文のテキスト、[訳文修正]列に機械翻訳後の訳文が表示されます。[訳文修正]列にある訳文を編集し、適切な訳文を完成させます。
 - [訳文修正] 列には、[原文修正] 列のテキストに対して ①翻訳メモリーで一致(100%一致)する訳文、②第1優先に設定された機械翻訳エンジンの出力結果、のどちらかがデフォルト表示されます。優先順位は ①>②です。
 - [原文修正]列を手動で編集して[再翻訳]をクリックすると、新しい[原文修正]列に対する、翻訳結果が自動的に[訳文修正]列に挿入されます。**※[原文修正]列を修正しても、出力される原文は変更されません。**
 - 機械翻訳エンジンで期待するような出力結果を得られない場合、原文に問題がある可能性があります。そのような場合は [原文修正] 列を手動で編集して [再翻訳] をクリックすると、新しい [原文修正] 列の原文に対する、機械翻訳エンジンの出力結果が自動的に [訳文修正] 列に挿入されます。**※原文修正列を修正しても、出力される原文は変更されません。**
- 採用する訳文が決まったら、セグメントの [編集ステータス] 列をクリックして「確定 」に設定します。キーボードの [Ctrl] + [Enter] でも「確定 」に変更できます。



図 9-4 エディター画面(保存時)

編集内容を保存するために、適宜 [保存] ボタンで一時保存してください。ネットワークが切れてしまうなど編集した内容が消えてしまう場合がありますので都度保存をしていただくことをお勧めします。

- すべてのセグメントで訳文を確定したら、[検証]ボタンで検証を実施し、訳文に問題がないか確認します。



図 9-5 エディター画面(検証にて問題があった場合)



図 9-6 エディター画面(検証にて問題無しとした場合)

- スタイルガイド、用語集、訳揺れについて検証機能が実行されます。違反がある場合は [検証ステータス] 列に  アイコンが表示され、リファレンスペインに詳細が表示されます。
 - リバーズ一致率も更新されます。[リバーズ一致率]の数値が極端に低い場合は訳抜けや誤訳の可能性がありますので、注意深く訳文を確認してください。
 - 検証の結果問題がない場合には、検証ステータスを  アイコン表示に変更することもできます。
4. 検証と、必要に応じて再編集が終わったら、[保存] ボタンを押して編集内容を保存した後 [完了] を押して編集作業を終了します。

注	[完了]ボタンを押しただけでは最新の編集内容が保存されません。検証後に再編集した場合は必ず[保存]ボタンで再保存してください。すべてのセグメントの編集ステータスが「確定  」であることをご確認ください。
----------	---

- [ダウンロード]ボタンで、翻訳した結果を元のファイル形式でダウンロードすることができます。
- [閉じる]ボタンをクリックすると、エディター画面そのものが終了します。

9.2.1.3. コントロールバーの各ボタンの機能

コントロールバーにはユーザーがポストエディットを行うための各種ボタンが配置されています。



図 9-7 コントロールバー

表 9-1 各ボタンの機能

ボタン	機能概要		
ダウンロード	翻訳済みのデータ(現在の [訳文修正] 列の内容)を元のファイル形式でダウンロードします。		
保存	現時点の編集内容を上書き保存します。 <table border="1"> <tr> <td>注</td><td>プロジェクト詳細画面で更新対象として [翻訳メモリー] を選択している場合、[保存] を実行することによって [編集ステータス] が「確定 ✓」のセグメントの [原文] および [訳文修正] 列の内容が反映され、翻訳メモリーが更新されます。</td></tr> </table>	注	プロジェクト詳細画面で更新対象として [翻訳メモリー] を選択している場合、[保存] を実行することによって [編集ステータス] が「確定 ✓」のセグメントの [原文] および [訳文修正] 列の内容が反映され、翻訳メモリーが更新されます。
注	プロジェクト詳細画面で更新対象として [翻訳メモリー] を選択している場合、[保存] を実行することによって [編集ステータス] が「確定 ✓」のセグメントの [原文] および [訳文修正] 列の内容が反映され、翻訳メモリーが更新されます。		
保存時に戻す	直近で [保存] ボタンを押した時点の編集内容を編集エリアにリロードします。		
検証	プロジェクトで選択されているスタイルガイド、用語集、訳揺れの設定を参照して、現在の訳文を検証します。 すべてのセグメントが対象になります。 検証の結果としてエラーになったセグメントは強調表示され、エラーの概要が [検証ステータス] 列に表示されます。また、全セグメントのリバース一致率も更新されます。検証の結果としてエラーになったセグメントは強調表示され、[検証ステータス] 列に ⚡ アイコンが表示されます。エラー内容の詳細については、リファレンスペインを御確認ください(リファレンスペインの表示についてはP.29、表 9-4 リファレンスペインの各エリアの機能を参照ください)。		
一括置換	編集エリア内で一括置換を行います。[原文修正] 列と [訳文修正] 列のどちらを対象とするか指定できます。正規表現による検索(置換)も可能です。(詳細はP.31、「9.2.1.8一括置換機能」を参照ください)		
再翻訳	現在アクティブな1セグメント、または [選択] 列で選択(チェックボックスON)したセグメント(1セグメント以上)について、[原文修正] 列のテキストに対して再翻訳を実施し、出力結果を [訳文修正] 列に自動的に反映します。アクティブなセグメントがなく、セグメントが選択されていない状態でボタンをクリックしても、再翻訳は実行されません。 ※再翻訳の処理では、ファイルのインポートと同じ処理が行われます。		
選択クリア	[選択] 列で選択済み(チェックボックスON)のセグメントをすべて選択解除(チェックボックスOFF)します。		
訳語検索	プロジェクトに設定されているすべての翻訳メモリー内で文字列を検索します(コンコーダンス検索)。検索対象は「原文」「訳文」を指定できます。翻訳メモリー内に該当する文字列がある場合は、訳語検索結果エリアに表示されます。 ※ファイル内の用語を検索する場合は、ブラウザのページ内検索機能(Ctrl + F)を使用してください。 <table border="1"> <tr> <td>注</td><td>過去にQuick PEで作業して編集/保存した原文や訳文を検索することはできません。ただし、オンラインTM機能とTMのエクスポート機能を利用してTMを再利用することで、Quick PEの編集内容を反映してTMを最新化しておくことができます。</td></tr> </table>	注	過去にQuick PEで作業して編集/保存した原文や訳文を検索することはできません。ただし、オンラインTM機能とTMのエクスポート機能を利用してTMを再利用することで、Quick PEの編集内容を反映してTMを最新化しておくことができます。
注	過去にQuick PEで作業して編集/保存した原文や訳文を検索することはできません。ただし、オンラインTM機能とTMのエクスポート機能を利用してTMを再利用することで、Quick PEの編集内容を反映してTMを最新化しておくことができます。		
完了	セグメントの [編集ステータス] をすべて「確定 ✓」に変更します。編集内容は自動では保存されませんので、前回保存した後に編集している場合は、必ずもう一度 [保存] ボタンを押してください。完了後は [閉じる] ボタンでエディター画面を終了してください。完了後も再びエディター画面を開いてファイルを編集することが可能です。		

9.2.1.4. 編集エリアの各列の機能

編集エリアにはポストエディットを行うファイルの内容が展開されています。ここで直接、編集を行います。ユーザーが操作(選択/変更)できる列と、表示のみ可能な列があります。



図 9-8 編集エリア

表 9-2 各列の機能

列	ユーザー操作 (選択/変更)	機能概要
選択	☐	再翻訳の対象とするセグメントを複数指定する場合に選択(チェックボックスON)します。
ID		セグメントのID(連番)
原文		作業対象ファイルの原文。プロジェクトで設定したスタイルガイド、用語集、NGワード集はこの[原文]に対して検証が行われます。
原文修正	☐	原文に明らかなタイポがある場合や、[訳文修正]列に表示されている訳文が不適切で、その原因が原文にある場合に、ユーザー自身が原文を修正することができます。 <u>機械翻訳エンジンで最良の結果を出力するために利用できる機能です。</u> デフォルト表示では [原文] 列と同じテキストが表示されますので、必要に応じて編集してください。[原文修正]列を修正しても、ダウンロードしたドキュメントの原文は変わりません。
翻訳ステータス		[訳文修正] 列のテキスト(訳文)がどのようにして出力されたかを示します。 ・ TM: 翻訳メモリーの100%一致の訳文が採用されていることを意味します。 ・ MT: 機械翻訳エンジンによる出力結果であることを意味します。 ・ TM+: 翻訳メモリーに100%一致の訳文が複数あることを意味します。このような場合は、該当する訳文のいずれかがデフォルト表示されていますので、[参考訳] エリアの「翻訳メモリー」に表示されている訳文をご確認ください。

列	ユーザー操作 (選択/変更)	機能概要
訳文修正	○	[原文修正] 列のテキストに対する訳文です。インポート処理の直後にエディター画面でファイルを開くと、①翻訳メモリーで一致(100%一致)する訳文、②機械翻訳エンジンの出力結果、のどちらかがデフォルト表示されます。優先順位は①>②です。また、一度保存したファイルを開いた場合は保存した訳文が表示されます。手動で編集できるほか、以下の操作により更新することもできます。また、セグメント内ではCtrl+ZによるUndo(元に戻す)処理も有効です。 ・[原文修正] 列のテキストを更新し、[再翻訳] ボタンで再翻訳を実行する。 → 再翻訳した結果が自動的に挿入されます。(再翻訳を実行すると編集ステータスは自動的に「未編集」に戻りますのでご注意ください。) ・リファレンスペインの [参考訳] エリアから機械翻訳エンジンによる出力結果を [挿入] ボタンで挿入する。 → 選択したテキストが挿入されます。(機械翻訳エンジンによる出力結果を挿入すると編集ステータスは自動的に「未編集」に戻りますのでご注意ください。) ・リファレンスペインの [用語フィールド] エリアから、用語集にある訳語を [挿入] ボタンで挿入する。([原文修正] 列に、用語集に存在する用語が含まれている場合のみ、該当する用語が表示されます。) → 選択した訳語がカーソルの位置に挿入されます。(編集ステータスは変わりません。)
リバーズ一致率		リバーズ一致率とは、<u>[訳文修正] 列にある訳文を逆翻訳した結果と [原文] 列にある原文とのギャップ(差異)を数値化したもの</u>です。訳抜けや誤訳があるとリバーズ一致率が極端に低くなる特性を利用して、これらのエラーを検出する目的で確認することができます。<u>リバーズ一致率は、エディター画面で検証機能または再翻訳機能を実行すると都度再計算され、数値が更新されます。</u> ※逆翻訳には、プロジェクトでリバーズ一致率の算出用に指定された機械翻訳エンジンの出力結果が利用されます。
編集ステータス	○	各セグメントの編集ステータスです。 ✕：未編集 ✎：編集中 ☑：確定 ※「編集中」、「確定 」にステータスを変更すると、再翻訳等を実施しない限り、「未編集」に戻りません。

列	ユーザー操作 (選択／変更)	機能概要
検証ステータス		検証機能を実行した結果がアイコンで表示されます。実行後、エラーのあるセグメントを選択するとリファレンスペインの [検証結果] エリアに詳細が表示されます。  : スタイルガイド、用語集、訳揺れについてのエラーあり  : 検証の結果問題なし

注	編集エリアに表示される編集内容の末尾のセグメントとしてファイルの作成者が自動的に挿入されます。これはQuick PEで利用しているファイルコンバーターの仕様となりますので、ご了承ください。(ダウンロードしていただく訳文ファイルには挿入されません。エディター画面上のみに表示されるセグメントです。)
----------	--

注	テキスト内で書式変更された箇所があるとエディター画面ではタグ(青い数字アイコン)として表示されます。[原文] および [原文修正] 列ではソースファイルの該当箇所に配置されますが、[訳文修正] 列ではすべて末尾に移動しますので、訳文にも書式を反映する場合は [訳文修正] 列で手動で位置を変更してください。[訳文修正列] でタグを手動で削除するとタグの不整合が生じる場合がありますので削除しないようご注意ください。タグの不整合が原因で訳文ファイルをダウンロードできなくなる現象が報告されています。 ※ソースファイルに対する前処理として、ファイル内のテキストを全選択後、書式をクリア ([Ctrl] + [Space]) してからインポートすると、編集エリア内に書式のタグは表示されません。 【書類名】  ・明細書  【書類名】 明細書 図 9-7 エディター画面のタグ表示
----------	---

注	Mozilla Firefox ブラウザをお使いの場合、編集エリアにおいて単語をダブルクリックで選択した場合、キーボードの [Delete] ボタンで削除できないという制約があります。そのような場合は、お手数ですが、単語の前後にカーソルを合わせて [Delete] または [Back space] ボタンで削除するなどの代替手段で編集していただきますようお願いします。
----------	---

9.2.1.5. [訳文修正] 列のインラインタグの表示

ファイルのインポート処理によって、翻訳メモリーで一致(100%一致)する訳文が [訳文修正] 列に初期表示される場合、つまり、[翻訳ステータス] 列に「TM」または「TM+」と表示されている場合、原文内に存在する書式情報(インラインタグ)は青い数字アイコンではなくタグに展開されて表示されます(下記例参照)。翻訳メモリーの訳文に含まれるインラインタグによって発生する処理エラーを回避するため、このように対策しておりますのでご了承ください。

表 9-1 列のインラインタグの表示

原文	訳文修正
 Warning! 	警告!<g></g>

9.2.1.6. リファレンスペインの各エリアの機能

リファレンスペインには、ポストエディットを行う際に参照する各種情報が表示されています。



図 9-9 リファレンスペイン

表 9-2 リファレンスペインの各エリアの機能

エリア	機能概要						
原文修正候補	クリックしたセグメントの [原文] 列の原文に検証エラーが含まれている場合に情報が表示されます。NGワードを検出し、対象テキストがハイライト表示されます。コメントを登録している場合は、マウスオーバーで表示されます。 						
参考訳	クリックしたセグメントの [原文修正] 列の原文に対して、プロジェクトに設定された第1優先、第2優先の機械翻訳エンジンによる出力結果が表示されます。[挿入] ボタンをクリックすると、[訳文修正] 列に出力結果が挿入されます。 						
用語フィールド	クリックしたセグメントの [原文修正] 列に、プロジェクトで設定した用語集に登録されている用語が含まれている場合は、ここに表示されます。 						
検証結果	検証エラーが発生しているセグメントを選択すると、ここに詳細が表示されます。 						
訳語検索結果	[訳語検索] ボタンで、翻訳メモリーに含まれる任意の文字列を検索した結果がここに表示されます。 <thead> <tr> <th>開発環境テスト.txt</th> <th>訳語検索結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【明細書】</td> <td>DESCRIPTION</td> </tr> <tr> <td>明細書</td> <td>DESCRIPTION</td> </tr> </tbody>	開発環境テスト.txt	訳語検索結果	【明細書】	DESCRIPTION	明細書	DESCRIPTION
開発環境テスト.txt	訳語検索結果						
【明細書】	DESCRIPTION						
明細書	DESCRIPTION						

9.2.1.7. 検証機能

検証機能の処理概要は以下のとおりです。

1. 各種検証処理(スタイルガイド、用語集、NGワード集)

2. 逆翻訳処理/リバーズ一致率の計算
3. 訳揺れチェック(プロジェクトが「訳揺れ」を使用する設定になっている場合のみ)

注	本システムでは、原文([原文] 列の文字列)が完全一致しているセグメントが複数ある場合で、その訳文([訳文修正] 列の文字列)が完全一致していないときに、訳揺れとして検出します。
----------	---

9.2.1.8. 一括置換機能

エディター画面の一括置換を利用すると、以下のような処理を簡単に行うことができます。

- 原文に含まれるタイポを一括修正:「置換対象列」を [原文修正] として、「置換前」に修正対象のタイポ文字列、「置換後」に修正後の文字列を入力
- 訳文に含まれるタイポを一括修正:「置換対象列」を [訳文修正] として、「置換前」に修正対象のタイポ文字列、「置換後」に修正後の文字列を入力
- 特定のパターンに該当する文字列を一括置換:「置換対象列」を指定し、「置換前」に置換対象のパターンを正規表現で入力、「置換後」に修正後のパターンや文字列を入力して、「正規表現を使用する」をチェックする。正規表現についてはP.94、「付録 正規表現のサンプル」を参照してください。

一括置換

置換対象列

☒ 原文修正 ☐ 訳文修正

置換前

置換後

☐ 大文字と小文字を区別する
☐ 正規表現を使用する

置換する
キャンセル

図 9-10 一括置換機能

9.2.1.9. 編集内容を元に戻す方法

編集内容は以下の方法で元に戻すことができます。

- エディター画面全体を元に戻す:コントロールバーにある [保存] ボタンをクリックすると、その時点のエディター画面全体の編集内容が一旦保存されます。その後の編集内容を破棄して保存時の内容に戻すには、[保存時に戻す] ボタンをクリックしてください。エディター画面全体が保存時の内容に戻ります。
- セグメント内での編集を元に戻す:作業中のセグメント内で元に戻す(1～数アクションだけ戻す)には、セグメント

内でCtrl+Z([Ctrl] キー+[Z] キー)により戻すことができます。

注	他のセグメントに移動してしまうと履歴が消失し、元のセグメントの内容をCtrl+Zで元に戻すことはできませんのでご注意ください。
----------	---

9.3. プロジェクト管理者向け説明

組織とQuick PEのグループ、プロジェクトの関係

組織とQuick PEのグループ、プロジェクトはおおまかに以下のような関係となっています。

Quick PEを利用する場合には、グループ及びプロジェクトを登録する必要があります。グループ及びプロジェクトについては、プロジェクト管理者の権限があれば登録することができます。

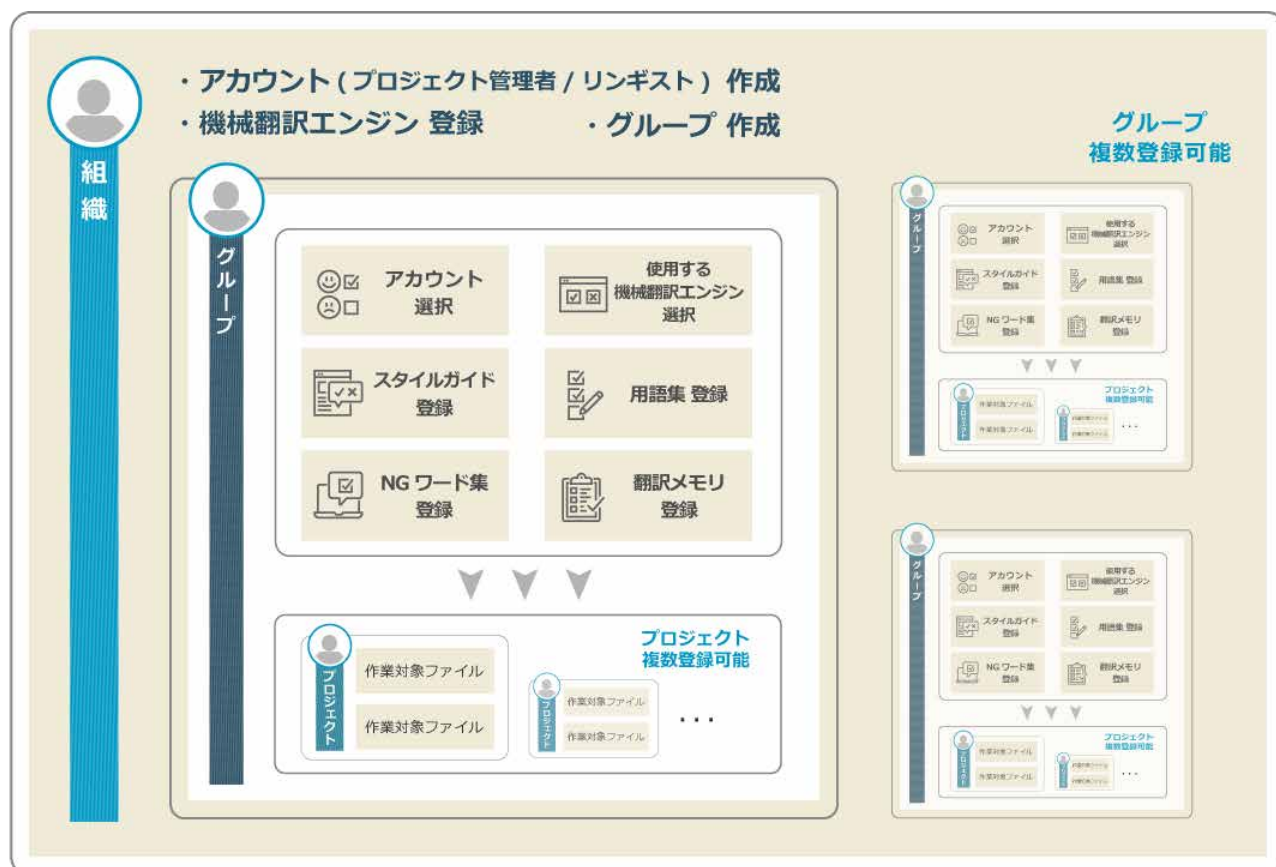


図 9-11 グループ、プロジェクトの関係

- 組織には複数のグループを登録することができます。
- プロジェクト管理者は、自分が属する組織に登録されているグループの一覧を参照することができます。自分が参加していないグループであっても、グループの一覧および詳細画面を参照し、詳細情報を変更することが可能です。
- グループごとに、グループに参加するアカウント(プロジェクト管理者およびリングスト)を選択します。また、必要に応じてプロジェクト参照情報(スタイルガイド、用語集、NGワード集、翻訳メモリー)を登録します。
- グループには複数のプロジェクトを登録することができます。
- プロジェクト管理画面では、グループごとに選択されたアカウント、プロジェクト参照情報からプロジェクトに必要な情報を選択し、作業対象ファイルを登録してプロジェクトの詳細情報を設定します。

参照情報の登録

必要に応じて、プロジェクト管理ボタンから「スタイルガイド管理」「用語集管理」「NGワード集管理」選択し、それぞれの情報を登録することができます。

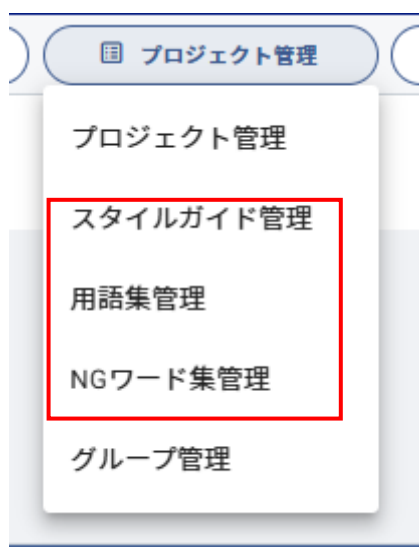


図 9-12 参考情報の登録

Quick PEを使用する際には、プロジェクト管理者がグループ管理とプロジェクト管理の設定を行う必要があります。具体的な手順として、以下のポイントがあります。

1. グループ管理設定

グループを管理するものであり、グループ名の設定、プロジェクト管理者およびリンギストの追加/編集を設定します。また、必要に応じてスタイルガイド、用語集、NGワード集、翻訳メモリーの設定を行うことができます。

2. プロジェクト管理設定

プロジェクトを管理するものであり、グループ名の指定、プロジェクト名の設定、翻訳者、チェッカーの設定を行います。また、必要に応じてスタイルガイド、用語集、NGワード集、翻訳メモリーの設定を行うことができます。

3. スタイルガイド

原文および訳文に対するスタイルを定めるものであり、エディター画面で「検証」することによりルールを逸脱した箇所を検出できます。

4. 用語集管理

使用することが規定されている用語（原文と訳文のペア）を定めるものであり、エディター画面で「検証」、「再翻訳」することにより参照できます。

5. NGワード集

使用を非推奨とする用語（NGワード）を定めるものであり、エディター画面で「検証」、「再翻訳」することにより該当箇所を検出できます。

9.3.1. グループ管理

9.3.1.1. グループ管理手順

プロジェクト管理ボタンからグループ管理をクリックします。

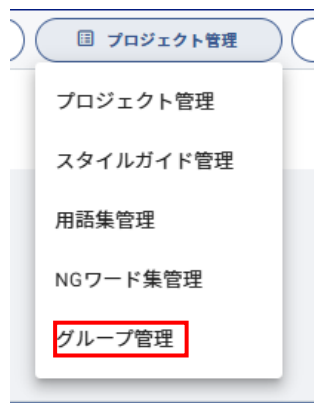


図 9-13 グループ管理画面

- ① [新規登録] をクリックすることで新規のグループを作成できます。
- ② すでに翻訳を行ったグループは一覧に表示され、 アイコンをクリックすることでグループ詳細に移動し、編集することができます。
- ③ 過去に作成したグループは検索することが可能です。

9.3.1.2. 9.1.1.1. グループ詳細画面の設定について

グループの追加

[新規登録]ボタンをクリックすると以下の画面が表示され、各項目を設定することができます。

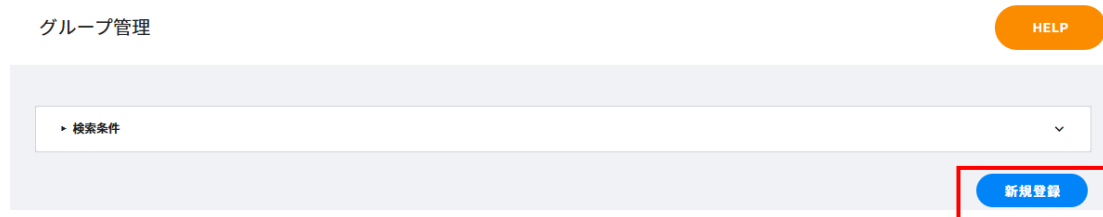


図 9-14 新規登録ボタン

図 9-15 グループ詳細

① グループ名

グループを識別するための任意のテキスト ※既に登録済みのグループ名は登録できません。

② プロジェクト管理者およびリングスト

グループへの参加者を、グループと同じ組織に属するアカウントから選択します。[追加 / 編集] ボタンをクリックすると、それぞれの権限を有するアカウントのみが一覧表示されます。

③ 機械翻訳エンジン

7つ機械翻訳エンジンから選択可能です。

グループ詳細画面の参照情報セクションでは以下の項目を設定することができます。選択は必須ではありません。

④ スタイルガイド

グループで使用するスタイルガイドを選択します。選択は必須ではありません。また、複数選択することができます。操作中のプロジェクト管理者と同一組織に登録されているスタイルガイドのみ選択可能です。

⑤ **用語集**

グループで使用する用語集を選択します。選択は必須ではありません。また、複数選択することができます。操作中のプロジェクト管理者と同一組織に登録されている用語集のみ選択可能です。

⑥ **LAC用語集**

LACで生成した用語集が選択可能です。

⑦ **NGワード集**

グループで使用するNGワード集を選択します。選択は必須ではありません。また、複数選択することができます。操作中のプロジェクト管理者と同一組織に登録されているNGワード集のみ選択可能です。

⑧ **翻訳メモリー**

[+翻訳メモリー追加] ボタンをクリックして、グループで使用する翻訳メモリーを登録(アップロード)します。アップロードできるのは正しい形式のtmxファイルのみです。登録は必須ではありません。また、言語方向を限定せず複数の翻訳メモリーを登録することができます。

⑨ **LAC翻訳メモリー**

LACで生成した翻訳メモリーが選択可能です。

翻訳メモリーに関する制約/注意事項

グループ詳細画面で翻訳メモリーとしてアップロードできるファイルについては以下の制約がありますのでご注意ください。

- **ファイル形式(拡張子):**tmx
- **ファイルサイズ:**100MB
- **行数/文字数:**制約なし
- **言語ペア(方向):**英日/日英(en→ja / ja→en)

プロジェクト登録後にグループ詳細を変更する際の注意点

グループに属するプロジェクトを登録した後、グループ詳細の一部の情報は変更することが可能です。項目によって影響範囲は異なります。

<基本情報>

- **グループ名:**変更できます。プロジェクト詳細画面に表示されるグループ名が変わります。
- **参加者(プロジェクト管理者およびリングスト):**変更できます。
- **機械翻訳エンジン:**機械翻訳エンジンの変更ができます。

<参照情報>

- **スタイルガイド、用語集、NGワード集:**変更できます。
- **翻訳メモリー:**変更(削除)できます。ただし、すでに開始されているプロジェクトで利用されている場合は変更(削除)できません。

注	スタイルガイド、用語集、NGワード集の各管理メニューからデータ自体が削除された場合は、グループ詳細画面およびプロジェクト詳細画面で選択されていても、インポート処理、エディター画面での検証処理および再翻訳処理で参照できなくなります。
---	---

9.3.2. プロジェクト管理

9.3.2.1. プロジェクト一覧画面の見方

Quick PEタイルをクリックするとプロジェクト一覧画面が表示されます。

プロジェクト一覧画面には以下の情報が表示されます。[設定]ボタンからプロジェクト詳細画面を表示するか、または [新規登録] ボタンからプロジェクトを新たに登録することができます。

すでに翻訳を行ったプロジェクトは一覧に表示され、[ファイル名]をクリックすることでエディター画面に移動します。

過去に作成したプロジェクトは検索することが可能です。

Quick PE プロジェクト管理 HELP

検索条件

プロジェクト名

グループ名

ファイル名

ステータス

更新日

yyyy/mm/dd ~ yyyy/mm/dd

この条件で検索

検索条件をクリア

新規登録

表示件数 20 1/1ページ 移動 全 1 件中 1 件 ~ 1 件

#	プロジェクト名	グループ名	ファイル名	インポート状況	作業状況	更新日	ステータス	設定
1	サンプル	sample2025	sample.docx	100%	0%	2025/03/07 14:36	編集	

図 9-16 プロジェクト一覧画面

- ・ **プロジェクト名**: 作成したグループ名が表示されます。
- ・ **グループ名**: 作成したグループ名が表示されます。
- ・ **ファイル名**: プロジェクトに登録されている作業対象ファイルです。リンクをクリックすると、エディター画面が別タブで起動します。
- ・ **インポート状況**: インポート処理中の場合は進捗率が%表示されます。
- ・ **作業状況**: 各ファイルの進捗率(ステータスが「確定」のセグメントの比率)が%表示されます。
- ・ **更新日**: プロジェクトの設定が最後に更新された日付です。
- ・ **ステータス**: プロジェクトのステータスです。「保存済」、「編集」、「完了」、「インポート失敗」(何らかの理由で処理が失敗した場合)のいずれかが表示されます。
- ・ **設定**: プロジェクト詳細画面が開き、プロジェクトの詳細を確認/変更することができます。

注	自動的に更新されますが、必要であればインポート状況のプログレesserの表示を更新するには、F5ボタンやブラウザのリロードボタンを押して画面をリフレッシュするか、ナビゲーションメニューで別の画面に遷移してからプロジェクト一覧画面に戻って表示を確認してください。 ※機械翻訳の処理（ファイルのアップロードおよび機械翻訳）には一定の時間を要しますのでご了承ください。この時間は、処理対象のファイルのサイズ、内容、処理時点のシステムの負荷状況、ネットワークの通信状況によって異なります。
---	--

9.3.2.2. プロジェクト詳細画面の設定項目（基本情報）

プロジェクトの新規登録

[新規登録]ボタンをクリックすると以下の画面が表示され、各項目を設定することができます。

図 9-17 プロジェクト詳細画面の基本情報

- ① **グループ名**: 操作中のプロジェクト管理者が属する組織に登録されているグループがプルダウンリストで表示されます。プロジェクトは必ずいずれかのグループに属している必要があります。
- ② **プロジェクト名**: プロジェクトを識別するための任意のテキスト ※既に登録済みのプロジェクト名は登録できません。
- ③ **翻訳者**: 各ファイルのポストエディット（機械翻訳後の修正）を担当する翻訳者を設定します。[追加] ボタンで行を追加します。[選択] ボタンをクリックすると、グループに参加しているアカウントのうちリンギストの権限を有するアカウントが一覧表示されますので、該当する翻訳者を選択してください。「翻訳者」は、1つのファイルに対して1人だけしか設定ができません。複数人で作業を行う場合には、「翻訳者」以外のユーザーは、後述の「チェッカー」として設定を行ってください。

翻訳者の選択

翻訳者を選択してください。

翻訳者の検索

表示件数

20

1/1 ページ

移動

全 1 件中 1 件 ~ 1 件

#	選択/翻訳者名	登録日
☐ 1	User	2024/12/24 10:18

決定

図 9-18 翻訳者の選択

④ **ファイル**:このプロジェクトで作業するファイルを設定します。1つのプロジェクトに複数のファイルを登録することができます。

⑤ **チェッカー**:ポストエディット(機械翻訳後の修正)が完了したファイルのチェックを担当するチェッカーを選択します。チェッカーはファイルとの関連付けはなく、プロジェクト内の全ファイルをチェックすることができます。[選択] ボタンをクリックすると、グループに参加しているアカウントのうちリンギストの権限を有するアカウントが一覧表示されますので、該当するチェッカーを選択してください。

チェッカーの選択

チェッカーを選択してください。

チェッカーの検索

表示件数

20

1/1 ページ

移動

全 1 件中 1 件 ~ 1 件

#	選択/チェッカー名	登録日
☐ 1	User	2024/12/24 10:18

決定

図 9-19 チェッカーの選択

40

機械翻訳エンジン*		
優先度	機械翻訳エンジン	設定
第1優先*	機械翻訳エンジン みんなの自動翻訳 ▼ 汎用モデル/カスタム機械翻訳モデル: 汎用NT 日本語 (ja) - 英語 (en)	
第2優先	機械翻訳エンジン ▼	
リバーサー一致率*	機械翻訳エンジン みんなの自動翻訳 ▼ 汎用モデル/カスタム機械翻訳モデル: 汎用NT 英語 (en) - 日本語 (ja)	

図 9-20 機械翻訳エンジンの設定

- **機械翻訳エンジン:** 機械翻訳エンジンを2つ選択します。
 - **第1優先(選択必須):** 機械翻訳第①エンジン
 - **第2優先(任意):** 機械翻訳第②エンジン
 - **リバーサー一致率(選択必須):** (デフォルトでは第1優先で選択した言語方向と逆のエンジンが自動的に設定されます。)

ファイルのインポート処理中に、[訳文修正]列に挿入される訳文を自動的に原語(原文の言語)に逆翻訳し、[原文]列のテキストとの一致率(%)を算出します。算出された一致率は[リバーサー一致率]列に表示されます。リバーサー一致率に使用するエンジンはプルダウンリストから自由に選択できます。言語方向は必ず**第1優先に設定した言語方向の逆を設定**してください。(たとえば、第1優先で「英語→日本語」を設定した場合、リバーサー一致率は「日本語→英語」を設定する必要があります。)

9.3.2.3. 機械翻訳エンジンごとの設定項目

選択した機械翻訳エンジンごとに言語方向を設定する必要があります。また、必要に応じてオプション項目を設定してください。各オプション項目については、最適と思われる設定を選択してください。

優先度	機械翻訳エンジン	設定
第1優先*	機械翻訳エンジン みんなの自動翻訳 汎用モデル/カスタム機械翻訳モデル： 汎用NT 日本語 (ja) - 英語 (en)	

図 9-21 機械翻訳エンジン毎の設定項目

右にある設定をクリックし、言語方向及びオプション項目を設定します。

機械翻訳エンジンの設定

汎用モデル/カスタム機械翻訳モデル
汎用NT 日本語 (ja) - 英語 (en)

オプション

MIMEタイプ
text/plain

書式情報(太字・斜体等)を優先
しない

数値だけのセグメントを翻訳から除外
しない

ハイフネーションを除去
する

対訳形式で出力(Word/Excel/Text/SRT)
しない

書式情報もまとめてMTで処理
しない

決定

図 9-22 機械翻訳エンジンの設定(標準タブ)

オプション項目(初期値)

The screenshot shows a dialog box titled 'オプション' (Options) with a close button in the top right corner. It contains six dropdown menus arranged in a 3x2 grid. The first dropdown is 'MIMEタイプ' (MIME type) with 'text/plain' selected. The second is '書式情報(太字・斜体等)を優先' (Prioritize formatting (bold, italic, etc.)) with 'しない' (No) selected and a red circled '1' next to it. The third is '数値だけのセグメント※を翻訳から除外' (Exclude numeric segments ※ from translation) with 'しない' (No) selected and a red circled '2' next to it. The fourth is 'ハイフネーションを除去' (Remove hyphenation) with 'する' (Yes) selected and a red circled '3' next to it. The fifth is '対訳形式で出力(Word/Excel/Text/SRT)' (Output in translation format (Word/Excel/Text/SRT)) with 'しない' (No) selected and a red circled '5' next to it. The sixth is '書式情報もまとめてMTで処理' (Process formatting information together with MT) with 'しない' (No) selected and a red circled '4' next to it.

図 9-23 オプション項目(初期値)

- ① **書式情報(太字・斜体等)を優先**: 機械翻訳での処理時に書式情報(インラインタグとその位置)を極力保持するかどうか指定します。
- ② **数値だけのセグメント※を翻訳から除外**: セグメント内の原文が数字だけで構成されている場合((".", " ", "-", "100", "100.00", "1,000.00", "-1,000.00"など)に、そのセグメントの翻訳を実行するかどうかを指定します。初期値は「しない」(翻訳から除外しない)です。「する」(翻訳から除外する)を指定すると、該当するセグメントでは原文が訳文としてそのまま採用されます。たとえば、数値のみが記載された表を含むWordファイルを翻訳する場合は「する」に設定すると有効です。
- ③ **ハイフネーションを除去**: 原文にて、長い単語が行末で折り返す際に記号が付加されている個所(ハイフネーション)がある場合、この記号を除去した上で1単語として機械翻訳処理を実行するかどうか指定します。
- ④ **書式情報もまとめてMTで処理**: 原文に書式情報(インラインタグとその位置)が含まれる場合に、機械翻訳エンジンの処理能力を最大限活用して、原文と書式情報をまとめて機械翻訳するかどうかを指定します。**初期値は機械翻訳エンジンによって異なります。**「する」を指定すると、各エンジンの性能の範囲内で原文の意味をタグで分断することなく適切に機械翻訳が実行され、訳文上でタグの位置が適切に再現されます。タグの破損などにより、まとめた機械翻訳が正常終了しなかった場合は、もう1つのオプション「書式情報を優先」が参照されて機械翻訳が実行されますので、機械翻訳自体がエラーになることはありません。
- ⑤ **対訳形式で出力(Word/Excel/Text/SRT)**: 原文ファイルの形式がMicrosoft Word、Microsoft Excel、テキスト、または字幕ファイル(.srt)の場合のみ、翻訳結果を原文と訳文の対訳形式で出力します。初期値は「しない」です。

9.3.2.4. プロジェクト開始

プロジェクトの設定を終えて[プロジェクト開始]をクリックすると、設定した作業対象ファイルのインポート処理が開始されます。インポート処理が終わるとプロジェクトがリンギスト(翻訳者およびチェッカー)向けに公開され、エディター画面での翻訳作業が可能な状態となります。



図 9-24 プロジェクト開始ボタン

作業対象ファイルのインポート処理

プロジェクト開始時にインポート処理が実行されます。処理概要は以下のとおりです。※エディター画面の再翻訳機能でも同じ処理(1を除く)が実施されます。

1. ファイルの内容(原文、存在する場合は訳文)をエディター画面に展開
2. 翻訳メモリとのマッチング
3. 機械翻訳エンジンによる自動翻訳
4. 逆翻訳処理/リバーサ一致率の計算

注	各種検証処理はエディター画面の[検証]ボタンを押さないと表示されません。
---	--------------------------------------

注	インポート中、翻訳処理中に他の画面に移動してもプロジェクトは保存されます。 また、処理終了を待たず追加でプロジェクトを追加することもできます。
---	--

#	プロジェクト名	グループ名	ファイル名	インポート状況	作業状況	更新日	ステータス	設定
1	サンプル	sample2025	sample.docx	5%	0%	2025/03/07 14:32	インポート中	

図 9-25 インポート中画面

処理が完了するとインポート状況が「100%」になり、ステータスが「編集集中」になります。

#	プロジェクト名	グループ名	ファイル名	インポート状況	作業状況	更新日	ステータス	設定
1	サンプル	sample2025	sample.docx	100%	0%	2025/03/07 14:36	編集集中	

図 9-26 編集集中画面

ファイル名をクリックするとエディター画面に移動し、編集作業を行うことができます。

[プロジェクト開始]をクリックすると、以下の情報は変更できなくなりますのでご注意ください。

- **グループ名**
- **翻訳者/ファイル**
- **チェッカー**
- **機械翻訳エンジンおよび言語方向**
- **翻訳メモリー**

以下の情報は変更することができます。変更後[プロジェクト変更]ボタンをクリックしてください。

- **プロジェクト名**
- **スタイルガイド、用語集、NGワード集**: 変更後、エディター画面で検証機能および再翻訳機能が実行されると、変更後の情報が参照されます。
- **訳揺れ(使用する/しない)**: 変更後、エディター画面で検証機能が実行されると、変更後の設定に応じて処理されます。原文([原文] 列の文字列)が完全一致しているセグメントが複数ある場合で、その訳文([訳文修正] 列の文字列)が完全一致していないときに、訳揺れとして検出します。

注	プロジェクト開始後にこれらの参照情報を変更した場合は、最新のデータで検証/再翻訳を行うために、作業完了前に必ずエディター画面で検証機能を実行するようリングストに依頼することをお奨めします。
----------	--

9.3.2.5. 機械翻訳の処理にかかる時間について

機械翻訳の処理(ファイルのアップロードおよび機械翻訳)には一定の時間を要しますのでご了承ください。この時間は、処理対象のファイルのサイズ、内容、処理時点のシステムの負荷状況、ネットワークの通信状況のほか、選択した機械翻訳エンジンによって異なります。

9.3.2.6. プロジェクト詳細画面の設定項目（参照情報）

プロジェクト詳細画面の参照情報セクションでは以下の項目を設定することができます。

参照情報 第1優先の機械翻訳エンジンの言語ペアを変更した場合は、以下の選択内容も更新してください。			
スタイルガイド	× 未選択	設定	
選択済のスタイルガイド	①	▼	
用語集	× 未選択	設定	
選択済の用語集	②	▼	
LAC用語集	× 未選択	設定	
選択済のLAC用語集	③	▼	
NGワード集	× 未選択	設定	
選択済のNGワード集	④	▼	
翻訳メモリー	× 未選択	設定	
選択済の翻訳メモリー	⑤	▼	
LAC翻訳メモリー	× 未選択	設定	
選択済のLAC翻訳メモリー	⑥	▼	
訳揺れ			
☒ 使用する ☐ 使用しない ⑦			

図 9-27 参照情報

- ① **スタイルガイド**:プロジェクトで使用するスタイルガイドを選択します。選択できるスタイルガイドは、グループで選択されているスタイルガイドのうち、第1優先の機械翻訳エンジンで選択した言語方向と一致する言語方向のスタイルガイドのみです。選択できるスタイルガイドが1つ以上ある場合でも、指定できるスタイルガイドは1つだけです（複数のスタイルガイドを適用することはできません）。指定しないことも可能です。

ヒント	スタイルガイドを活用することで、あらかじめ設定したルールに基づいて訳文を機械的にチェックすることができます。（例：数字の半角全角やかっこの半角全角など）
-----	--

- ② **用語集**:プロジェクトで使用する用語集を選択します。選択できる用語集は、グループで選択されている用語集のうち、第1優先の機械翻訳エンジンで選択した言語方向と一致する言語方向の用語集のみです。選択できる用語集が1つ以上ある場合、複数指定することもできます。指定しないことも可能です。

ヒント	用語集を活用することで、翻訳編集時に登録した用語を参照することが可能です。
-----	---------------------------------------

- ③ **LAC用語集**:LACで生成した用語集が選択可能です。
- ④ **NGワード集**:プロジェクトで使用するNGワード集を選択します。選択できるNGワード集は、グループで選択されているNGワード集のうち、第1優先の機械翻訳エンジンで選択した言語方向と一致する言語方向のNGワード集のみです。選択できるNGワード集が1つ以上ある場合、複数指定することもできます。指定しないことも可能です。

ヒント	NGワード集は原文にのみ適用されます。登録いただく場合は機械翻訳が苦手としている表現（いつも修正している表現）を登録いただくと効果的です。NGワード集を活用することで、登録した内容が原文に含まれていないかチェックし、原文修正が必要なセグメントの検知が可能です。
-----	--

- ⑤ **翻訳メモリー**:プロジェクトで使用する翻訳メモリーを選択します。選択できる翻訳メモリーは、グループで選択されている翻訳メモリーのうち、第1優先の機械翻訳エンジンで選択した原語(原文ファイルの言語)と一致する原語の翻訳メモリーのみです。選択できる翻訳メモリーが1つ以上ある場合、複数指定することもできます。指定しないことも可能です。

ヒント	翻訳メモリーを活用することで、過去に翻訳した翻訳文を、機械翻訳を用いることなく流用することができます。また、訳語検索機能を用いることで、翻訳メモリー内を検索し、過去に翻訳した訳語を参照することが可能です。
------------	--

- ⑥ **LAC翻訳メモリー**:LACで生成した翻訳メモリーが選択可能です。
- ⑦ **訳揺れ**:リンギスト(翻訳者およびチェッカー)によるエディター画面での検証で、訳揺れのチェックを実施するかどうかをラジオボタンで指定します。「使用する」を選択すると、エディター画面で検証機能を実行した際にファイル全体に対して訳揺れのチェックが実施されます。原文([原文] 列の文字列)が完全一致しているセグメントが複数ある場合で、その訳文([訳文修正] 列の文字列)が完全一致していないときに、訳揺れとして検出します。

注	誤って選択してしまった場合、ラジオボタンをダブルクリックすると選択を解除することができます。
----------	--

9.3.2.7. オンラインTM(翻訳メモリー)機能について

プロジェクト詳細画面で [更新を許可] に設定した翻訳メモリーに対して、エディター画面のポストエディット内容を反映することができます。エディター画面の [保存] ボタンクリック時に、画面に表示されているセグメントのうち編集ステータスが「確定 」のセグメントのみが反映されます。

注	すでに翻訳メモリーに存在するセグメント(原文が一致するセグメント)は訳文のみが更新されます。一方、翻訳メモリーに存在しないセグメントは、翻訳メモリーにセグメントそのものが新しいレコード(行)として追加されます。
----------	---

注	同一グループや別グループで複数のプロジェクトで翻訳メモリーが参照されていて、複数のエディター画面での編集内容が反映される状態([更新を許可] チェックボックスがON)になっている場合、時系列上で新しいほうのデータで上書きされますのでご注意ください。
----------	--

9.3.2.8. 翻訳メモリの更新とエクスポート

プロジェクトで選択した翻訳メモリについて、以下の設定/処理が可能です。

- **更新対象を指定:**更新対象の翻訳メモリを1つだけ指定して、Quick PEエディター画面でのポストエディット内容を翻訳メモリに反映することができます。更新対象とする翻訳メモリの [更新を許可] チェックボックスをONにしてください。
- **tmxファイルとしてエクスポート:**最新の内容の翻訳メモリをtmxファイル形式でエクスポートできます。各行の [エクスポート] ボタンをクリックしてください。クリック時点での最新の内容をエクスポートできます。原文にインラインタグ(書式情報)が含まれる場合、エディター画面上ではアイコンで表示される箇所は、tmxファイルではタグに置換されます。

選択済の翻訳メモリ

#	選択済の翻訳メモリ名	更新を許可	エクスポート
1	テスト.tmx	☐	

図 9-28 翻訳メモリのエクスポート

9.3.2.9. 翻訳メモリ(TM)を再利用する方法

翻訳メモリ(TM)にエディター画面でのポストエディット内容を反映し、TMを複数のグループ/プロジェクトで再利用する手順は以下のとおりです。

1. Quick PEのグループ詳細画面の参照情報エリアの「翻訳メモリ」でローカル環境にあるTM(.tmx)ファイルを登録(アップロード)します。言語方向を限定せず、複数のTMを登録できます。
2. グループ詳細画面またはプロジェクト一覧画面の [+プロジェクトの新規登録] ボタンでプロジェクトを作成し、プロジェクト詳細画面で、手順1.で選択したTMからプロジェクトに必要なTMを指定します。
3. ポストエディット内容を反映するTMの [更新を許可] チェックボックスをONに設定します。
4. [プロジェクト開始] をクリックしてファイルのインポート処理を実行します。エディター画面が表示されたら、通常どおりポストエディットを行います。
5. [保存] を実行すると [編集ステータス] が「確定 」のセグメントのみがTMに反映されます。
6. **同じグループの別のプロジェクトでTMを再利用するには:**新しいプロジェクトの詳細画面で該当のTMを選択してください。この画面でプロジェクトを開始した時点の最新の内容がTMとして参照されます。
7. **別のグループでTMを再利用するには:**まず、手順5.で最新の状態になったTMを.tmxファイルとしてエクスポートします。新しいグループの詳細画面にあるtmxファイルをTMとして登録(アップロード)し、そのグループに属するプロジェクトの詳細画面で該当のTMを選択してください。

注	同一グループや別グループで複数のプロジェクトでTMが参照されていて、複数のエディター画面での編集内容が反映される状態([更新を許可] チェックボックスがON)になっている場合、時系列上で新しいほうのデータで上書
---	---

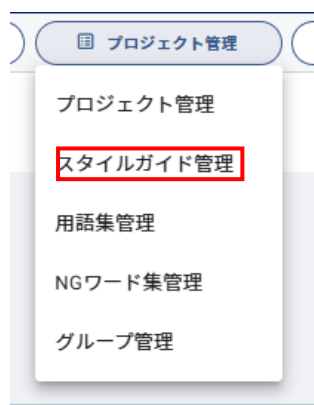
きされますのでご注意ください。

9.3.3. スタイルガイド

スタイルガイドは原文および訳文に対するスタイルを定めるものです。Quick PEでは、リングスト(翻訳者およびチェッカー)によるエディター画面での検証処理で参照されます。

スタイルガイドの作成手順

1. プロジェクト管理ボタンからスタイルガイド管理をクリックします。



2. スタイルガイド一覧画面で [新規登録]をクリックします。



図 9-29 スタイルガイドの新規登録

3. スタイルガイド詳細画面で、任意のスタイルガイド名を入力し、言語（原語と訳語）を一覧から選択します。

図 9-30 スタイルガイド詳細画面(基本情報)

4. [項目名] エリア下部の [追加] をクリックすると項目設定画面（ポップアップ）が表示されますので、[項目名] を入力して保存します。1つの項目に複数のルールを登録することができますので、下位のルールを表す名称としておくことをお奨めします。

図 9-31 スタイルガイド詳細画面(項目設定)

5. 追加した項目を選択した状態で [ルール名] エリア下部にある [追加] をクリックすると、ルール設定画面（ポップアップ）が表示されます。以下の情報を入力して保存します。

スタイルガイド：ルール設定

×

項目名

test

必須

ルール名

必須

適用内容

検索文字列

必須

☐ 原文修正 ☐ 訳文修正

検証メッセージ

コメント

保存

図 9-32 スタイルガイド詳細画面(ルール設定)

- **項目名**: 選択した項目の名称が自動的に表示されます(編集不可)。変更する場合は項目設定画面で変更してください。
 - **ルール名**: ルールを識別するための任意のテキスト(名称)
 - **適用内容**: 検索文字列: 検証対象を検索し、検証を行うスタイルを指定します。正規表現で指定してください。エディター画面で、このスタイルと合致する文字列が検索され、検証処理および再翻訳処理において検証されます。
 - **検証対象**: 指定したスタイルを検索する対象を指定します。エディター画面の編集エリアの [原文修正] 列または [訳文修正] 列、あるいはその両方を指定することができます。
 - **検証メッセージ**: エディター画面で検証機能を実行した際、このルールに違反している場合に表示するメッセージ(リングスト向け)を入力します。必須項目ではありませんので、必要に応じてご利用ください。
 - **コメント**: プロジェクト管理者向けのメモであり、エディター画面には表示されません。必須項目ではありませんので、必要に応じてご利用ください。
6. 必要な項目とルールを登録したら画面下部の [保存] をクリックしてスタイルガイドを保存します。

7. 保存したスタイルガイドはスタイルガイド一覧画面に表示され、[編集] ボタンから適宜、編集することができます。

注	スタイルガイドは組織内の他のプロジェクト管理者と共有されます。スタイルガイド管理画面では、他のプロジェクト管理者が登録したスタイルガイドを検索することができ、詳細を参照することができます。また、他のプロジェクト管理者が登録したスタイルガイドおよび項目、ルールの編集(更新/削除)と保存も可能です。 <u>スタイルガイド名、項目名、ルール名について、それぞれ登録済みの名称を登録することはできません。</u>
---	---

注	スタイルガイドで指定したルール(スタイル)は検証処理で参照され、ポストエディットを行う際の指針となる情報を提供するものです。本システムにおいて、自動的に文字列を置換するものではありません。
---	---

プロジェクトで使用するスタイルガイドを指定する方法

- スタイルガイドを登録した後、まずはグループ管理画面で、グループで使用するスタイルガイドを選択します。グループ管理画面で選択できるスタイルガイドは、同じ組織に属するプロジェクト管理者が登録したスタイルガイドのみです。グループ向けに複数のスタイルガイドを選択することができます。
- 次に、プロジェクト管理画面で、プロジェクトで使用するスタイルガイドを選択します。プロジェクト管理画面で指定できるスタイルガイドは、グループ向けに選択されているスタイルガイドのうち、原語が一致しているスタイルガイドのみで、プロジェクトごとに1つだけ指定できます。

注	グループ向けにスタイルガイドが1つ以上選択されている場合でも、プロジェクトで指定できるスタイルガイドは1つだけです。一方、グループ向けにスタイルガイドが選択されていない場合、プロジェクトではスタイルガイドを使用できません。
---	--

9.3.4. 用語集

用語集は、案件ごとに使用することが規定されている用語（原文と訳文のペア）を定めるものです。Quick PEでは、作業対象ファイルのインポート処理、およびリングスト（翻訳者およびチェッカー）によるエディター画面での検証処理および再翻訳処理で参照されます。用語集として以下の情報を設定することができます。用語集一覧の[新規登録] または [編集] ボタンより登録または編集します。

プロジェクト管理ボタンから用語集管理をクリックします。

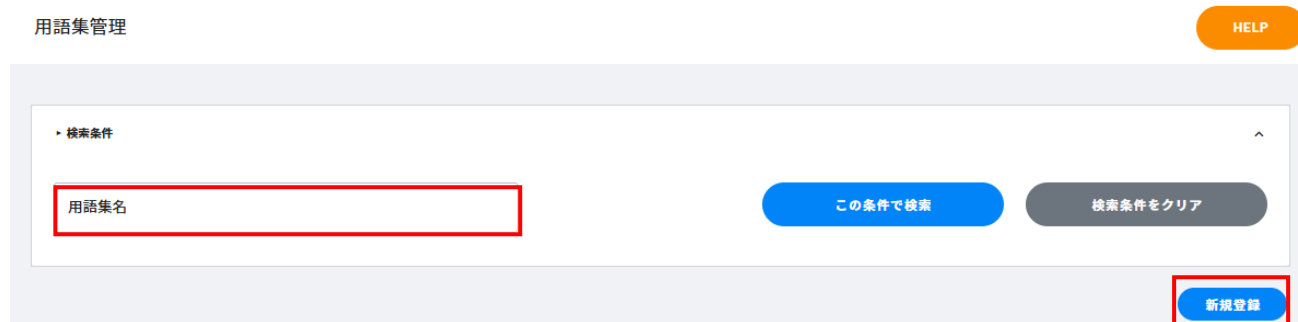


図 9-33 用語集管理画面

基本情報

用語集名

sample

原語

ja

訳語

en

用語集ファイル名

インポート

用語一覧

☒ 原文

☐ 訳文

用語検索



新規登録

アクション

表示件数

20

0/0ページ

移動

全 0 件中 0 件 ~ 0 件

#	原語	訳語	編集	削除
☐ 1	テスト	TEST		

図 9-34 用語集詳細

- **用語集名:** 用語集名を入れます。 ※既に登録済みの用語集名は登録できません。
- **言語(原語、訳語):** "ja"、"ja-JP"、"en"、"en-US" より選択。 ※"ja-JP"、"en-US"も選択可能ですが、本システムでは"ja"、"en"の選択を推奨しております。詳細はP.56を参照ください。
- **用語一覧:** [+用語追加] ボタンをクリックして、用語を手動で登録することができます。また、ファイル (tbx形式) をインポートすることで、用語を一括で登録することもできます。インポートした用語一覧に、さらに手動で用語を追加することも可能です。(用語集の行数・文字数に制限はありません)
- **用語集を新規登録する場合:** 用語集詳細画面の「用語集ファイル名」からtbxファイルを指定して [インポート] ボタンをクリックします。一度 [保存] ボタンをクリックすると追加でインポートすることはできませんので、新規登録時には最初にtbxファイルをインポートしてから用語を追加することをお奨めします。
- **登録している用語集を置き換える場合:** 用語集一覧画面の [インポート] ボタンをクリックします。これは上書きインポートになるため、選択した用語集の内容が完全に置換されます。原語/訳語の設定は変更されません。

各プロジェクト管理者は、複数の用語集を登録することができます。登録した用語集と用語はそれぞれ編集および削除することができます。用語が多い場合は、用語の検索機能を使用して用語を見つけることができます。検索対象として原文または訳文を指定してください。

用語追加ボタン又は編集ボタンをクリックすると以下の画面が表示されるため、必要事項を入力します。

用語追加・編集

用語の大文字小文字を区別する

必須

原文

必須

訳文

検証メッセージ

用語集に登録されている訳語をご確認ください

コメント

保存

図 9-35 用語追加・編集

- **原文:**用語の原文
- **訳文:**用語の訳文
- **検証メッセージ:**エディター画面でのファイルインポート後、または検証機能や再翻訳機能を実行した際、この用語集に違反している場合に表示されるメッセージ(リンギスト向け)
- **コメント:**この用語に関する備考情報(プロジェクト管理者向けのメモ。エディター画面には表示されません。)

各プロジェクト管理者は、複数の用語集を登録することができます。登録した用語集と用語はそれぞれ編集および削除することができます。

注	用語集は組織内の他のプロジェクト管理者と共有されます。用語集管理画面では、他のプロジェクト管理者が登録した用語集を検索することができ、詳細を参照することができます。また、他のプロジェクト管理者が登録した用語集および用語の編集(更新/削除)と保存も可能です。
---	--

注	用語集で指定した用語ペアは検証処理で参照され、ポストエディットを行う際の指針となる情報を提供するものです。本システムにおいて、ここで登録した用語が自動的に訳文に採用されることはありません。機械翻訳実行後(または、再翻訳や検証処理の後)にエディター画面でセグメントを選択した際、セグメント内の原文に該当する用語が含まれている場合に、右ペインの「用語フィールド」エリアに用語集の内容(訳語)が表示されます。内容をご確認いただき、訳文に採用するかどうかを決定してください。
---	---

インポートできるファイル

用語集としてインポートできるファイルについては以下の制約がありますのでご注意ください。

- ファイル形式(拡張子): tbx
- ファイルサイズ: 500MB
- 行数/文字数: 制約なし
- 言語ペア: 英日(en→ja)または日英(ja→en)

用語集の言語について

用語集は2つの言語の用語のペアであるため、どちらの言語を原語(および訳語)に指定しても構いません。例えば、「en」と「ja」の用語のペアを含む用語集(tbxファイル)をインポートする際、原語を「en」に指定した場合は英語の用語が「原文」として、日本語の用語が「訳文」として登録されます。同様に、原語を「ja」に指定した場合は、日本語の用語が「原文」、英語の用語が「訳文」となります。ただし、用語集ごとに設定できる原語/訳語のペアは1つのみです。原語「en」の用語と原語「ja」の用語を1つの用語集として保存することはできません。

注	ただし、プロジェクト管理画面では、プロジェクトの原語と同じ原語の用語集しか選択できません。1つの用語集の原語/訳語のペアを両方向で(上記の例の場合「en」→「ja」でも「ja」→「en」でも)利用したい場合は、用語集を2つ作成して、それぞれに同じtbxファイルをインポートすることができます。
----------	--

言語について(ja/ja-JP、en/en-US)

- Quick PEでは言語として2つの言語を利用できます。日本語(ja/ja-JP)または英語(en/en-US)から選択してください。
- "en-US" および "ja-JP" は言語コードにロケールを付加した表記です。作業対象ファイルとして、ロケールが設定されたバイリンガルファイルを読み込む場合に対応するよう、ロケールのある選択肢が存在しています。本システム外の翻訳支援ツールのXLIFFファイル(.sdlxliffまたは.mqxliiff)をインポートする場合は "en-us" および "ja-jp" を、それ以外の場合は "en" および "ja" を選択することをお奨めします。

9.3.5. NGワード集

プロジェクト管理ボタンからNGワード集管理をクリックします。

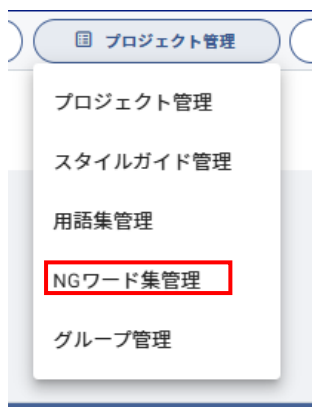


図 9-36 NGワード集管理

NGワード集は、案件ごとに使用を非推奨とする用語（NGワード）を定めるものです。Quick PEでは、作業対象ファイルのインポート処理と、リングスト（翻訳者およびチェッカー）によるエディター画面における検証機能、再翻訳機能で参照されます。NGワード集として以下の情報を設定することができます。NGワード集一覧の [新規登録] または [編集] ボタンより登録または編集します。

NGワード集詳細

HELP

基本情報

NGワード集名

原語

NGワード集ファイル名

インポート

(許可されるファイル拡張子: .ngwx)

NGワード一覧

NGワード検索

新規登録 アクション

表示件数 20 0/0ページ 移動 全0件中0件~0件

#	原文	編集	削除
保存			

図 9-37 NGワード集詳細

- **NGワード集名**: NGワード集名を入力します。 ※既に登録済みのNGワード集名は登録できません。
- **原語**: NGワードの検証対象は原文のみですので、原語を"ja"、"ja-JP"、"en"、"en-US" より選択します。※"ja-JP"、"en-US"も選択可能ですが、本システムでは"ja"、"en"の選択を推奨しております。詳細はP.60を参照ください。
- **NGワード一覧**: [新規登録] ボタンをクリックして、NGワードを手動で登録することができます。また、ファイル (ngwx形式) をインポートすることで、NGワードを一括で登録することもできます。インポートしたNGワード一覧に、さらに手動でNGワードを追加することも可能です。

NGワード追加・編集

必須 原文

検証メッセージ

原文にNGワードが含まれています。ご確認ください

コメント 用語集に登録されている訳語をご...

保存

図 9-38 NGワードの追加・編集

- **NGワード集を新規登録する場合:** NGワード集詳細画面の「NGワード集ファイル名」からngwxファイルを指定して [インポート] ボタンをクリックします。ただし、再度 [保存] ボタンをクリックするとインポートできなくなるため、新規登録時には最初にngwxファイルをインポートしてからNGワードを追加することをお奨めします。
- **登録したNGワード集を置き代える場合:** NGワード集一覧画面の [インポート] ボタンをクリックします。これは上書きインポートになるため、選択したNGワード集の内容が完全に置き代わります。

各プロジェクト管理者は、複数のNGワード集を登録することができます。登録したNGワード集とNGワードはそれぞれ編集および削除することができます。NGワードが多い場合は、NGワードの検索機能を使用してNGワードを見つけることができます。

注	本システムにおける「NGワード」とは、原文に含まれていると機械翻訳で有効な結果が得られない用語を指します。原文にNGワードが含まれており、機械翻訳の結果が望ましい訳文ではない場合は、エディター画面の [原文修正] 列で原文を修正して [再翻訳] を実行することで、より良い機械翻訳結果を得られる可能性があります。
----------	--

注	ngwxファイル形式はデータを利用者間で共有する際に利用します。
----------	----------------------------------

- **原文:** NGワード
- **検証メッセージ:** エディター画面でのファイルインポート後、または検証機能や再翻訳機能を実行した際、このNGワードに違反している場合に表示されるメッセージ(リングスト向け)
- **コメント:** このNGワードに関する備考情報(プロジェクト管理者向けのメモ。エディター画面には表示されません。)

各プロジェクト管理者は、複数のNGワード集を登録することができます。登録したNGワード集とNGワードはそれぞれ編集および削除することができます。

注	NGワード集は組織内の他のプロジェクト管理者と共有されます。NGワード集一覧画面では、他のプロジェクト管理者が登録したNGワード集を検索してエクスポートすることができます。他のプロジェクト管理者が登録したNGワード集の削除も可能です。ただし、NGワード集に含まれるNGワードの参照と編集(変更および削除)は、NGワード集を登録したプロジェクト管理者しか実行できません。
----------	--

インポートできるファイル

NGワード集としてインポートできるファイルについては以下の制約がありますのでご注意ください。

- ファイル形式(拡張子): ngwx
- ファイルサイズ: 500MB
- 行数/文字数: 制約なし
- 言語ペア: 英日(en→ja)または日英(ja→en)

言語について(ja/ja-JP、en/en-US)

- Quick PEでは言語として2つの言語を利用できます。日本語(ja/ja-JP)または英語(en/en-US)から選択してください。

"en-US" および "ja-JP" は言語コードにロケールを追加した表記です。作業対象ファイルとして、ロケールが設定されたバイリンガルファイルを読み込む場合に対応するよう、ロケールのある選択肢が存在しています。本システム外の翻訳支援ツールのXLIFFファイル(.sdlxliffまたは.mqxliff)をインポートする場合は "en-us" および "ja-jp" を、それ以外の場合は "en" および "ja" を選択することをお奨めします。

10. カスタマイズ(LAC)

カスタマイズ(LAC)とは、翻訳業務の工数削減およびコスト削減を目的として、自社専用の機械翻訳エンジンを作成・最適化するための仕組みです。

さまざまな言語資産(翻訳メモリ・用語集・追加学習データなど)を活用し、モデルを作成・調整することで、高精度かつ自社特化型の翻訳を実現します。



図 10-1 ダッシュボードエリア

10.1. 抽出データ

抽出データ画面の見方

本画面には、組織内で登録されている抽出データの一覧が表示されます。本システムにおける抽出データとは、インターネット上のテキスト(またはお客様のファイル)からAIを活用して言語データを抽出したものです。本画面では、条件を指定して抽出データを検索することもできます。新たにデータを抽出するには、画面上部の [+ 新規登録] をクリックしてください。

注	抽出データのアライン(言語資産の登録)は、組織ごとに設定されているTU数上限による制限の対象となります。 <u>保有している言語資産のTU数が上限を超過した場合はシステム管理者よりご連絡いたしますので、言語資産を削除していただくか、TU数上限を拡張(追加購入)していただくようお願いいたします。</u>
---	---

- 検索条件エリア

検索条件

抽出対象
ファイル

名称

登録開始日
yyyy/mm/dd ~ yyyy/mm/dd

URL/ファイル名

ステータス

この条件で検索

検索条件をクリア

図 10-2 検索条件エリア

- 抽出対象:「Webサイト」または「ファイル」を選択できます。
- 名称
- 登録開始日 (UTC)
- URL/ファイル名
- ステータス: 以下のいずれかが表示されます。「抽出処理完了」の抽出データのみ、アライン処理の対象として選択することができます。
 - 未処理**: まだ抽出処理が開始されていません。
 - 抽出処理中**: 抽出処理中です。
 - 抽出処理完了**: 抽出処理が完了して、アライン処理を実行できる状態です。
 - 抽出処理エラー**: 抽出処理が開始されたものの、何らかの理由により途中で失敗した状態です。
 - 削除エラー**: 削除処理が開始されたものの、何らかの理由により途中で失敗した状態です。

- 抽出データ一覧

☐ 名称	URL/ファイル名	サイトの全ページ	言語	登録開始日	ステータス	データ量	アライン	表示
☐ 明細書	日本語明細書サンプル.docx		ja	2025/06/27 13:35	抽出処理完了	39行 (1,914文字)		表示
☐ 明細書	日本語明細書サンプル_EN.docx		en	2025/06/27 13:35	抽出処理完了	45行 (950ワード)		表示

図 10-3 抽出データ一覧

- 名称**: 抽出時に付与した抽出データの名称。クリックすると抽出データ詳細画面が表示されます。
- URL/ファイル名**: 抽出対象としたURL (抽出対象が「Webサイト」の場合) またはファイル名 (抽出対象が「ファイル」の場合)
- サイトの全ページ**: Webサイトに含まれるテキストを収集 (スクレイピング) して言語データを抽出した際に表示されます。
- 再帰実行**: 抽出時に [再帰実行する] を有効にした場合は「○」が表示されます。言語: 抽出時に指定した言語

- ステータス: 以下のいずれかが表示されます。「抽出処理完了」の抽出データのみ、アライン処理の対象として選択することができます。
 - **未処理**: まだ抽出処理が開始されていません。
 - **抽出処理中**: 抽出処理中です。
 - **抽出処理完了**: 抽出処理が完了して、アライン処理を実行できる状態です。
 - **抽出処理エラー**: 抽出処理が開始されたものの、何らかの理由により途中で失敗した状態です。
 - **削除エラー**: 削除処理が開始されたものの、何らかの理由により途中で失敗した状態です。
- データ量
- **アライン**: 「原語」、「訳語」を指定した抽出データを2件以上選択して [アライン] ボタンを押すと、アライン処理が実行されます。
- **[表示] ボタン**: 抽出データに含まれるテキストの全行を確認できます。編集や削除はできません。

10.1.1. アライン処理とは

抽出データを言語資産として登録するには、原語と訳語に指定したデータ(原文と訳文)に対してアライン処理(アラインメント)を実行してTMを作成します。アクションボタンから[選択した項目をアライン] ボタンを押すとダイアログが表示されて判定基準を設定できます。後述のセクション [LeftoverTMと判定基準] を参考に選択して [アライン実行] ボタンを押してください。

アライン実行

Leftover判定基準を選択

☐ きつめ(ノイズが減る)
 ☒ おすすめ
 ☐ ゆるめ(ノイズが増える)

アライン実行

キャンセル

図 10-4 アライン実行画面

注	アライン処理を実行するには、一覧から選択するすべてのデータについて [アライン] 列に「原語」または「訳語」を指定する必要があります。また、アライン処理には「原語」、「訳語」のデータがそれぞれ1件以上必要です。
----------	---

10.1.2. LeftoverTMと判定基準

言語資産としてTMを登録する際、元となる抽出データから言語資産として採用する基準を指定します。本システムでは、このように基準を満たさないデータはノイズ（誤訳や対応ずれ）であり、そのままの状態ではTMに適さないデータであるという考えから、TMには採用せず「Leftover」として取り扱います。ノイズのみを集めたTMが「LeftoverTM」です。

元となる抽出データによっては、判定基準を満たすデータのみを集めたTMとは別に、判定基準を満たさないデータのみを集めたLeftoverTMが登録されます（登録される言語資産名の末尾に「(LeftoverTM)」が自動的に付与されます）。以下を参考にして判定基準を指定してください。

- **きつめ（ノイズが減る）**:きつい基準で判定するため、採用されるデータ(TU数)は少なくなりますが、ノイズも減ります。ノイズが多く含まれている抽出データから、できるだけ品質の高いTMを作成したい場合に指定してください。
- **おすすめ**:初期値です。「きつめ」「ゆるめ」のどちらにも該当しない場合に指定してください。
- **ゆるめ（ノイズが増える）**:ゆるい基準で判定するため、採用されるデータ(TU数)は多くなりますが、その分、ノイズも増えます。元となる抽出データをできるだけTMに採用したい場合に指定してください。

注	LeftoverTMも、通常のTMと同様に各種処理（原文/訳文の編集、結合、エクスポート、カスタム機械翻訳モデル管理での利用）が可能です。必要に応じて原文/訳文を編集（更新）してご利用ください。
----------	---

注	元となる抽出データにノイズが含まれない場合、LeftoverTMは作成されません。逆に、元となる抽出データにノイズが多い場合、非常に稀にデータがすべてLeftoverTMに含まれることになり、メインのTMにデータが含まれない可能性もあります。登録されたTMのデータが意図したものでない場合は、判定基準を変えて再度、アライン処理をお試しください。
----------	--

10.2. スtockデータ

ストックデータ一覧画面の見方

本画面には、言語資産としてご利用いただけるストックデータの一覧が表示されます。ストックデータとは本システムが提供している言語データであり、属性として分野やドキュメントタイプが設定されています。種類は「TM」です。必要なストックデータをインポートすることで、お客様の言語資産として利用できるようになります。

注	ストックデータのインポート（言語資産の登録）は、組織ごとに設定されているTU数上限による制限の対象となります。 <u>UT数上限を超過してストックデータをインポートすることはできませんので、[使用可能TU数] よりもTU数が多いストックデータをインポートする場合は、事前に保有中の言語資産を削除して使用可能TU数を増やしておくか、TU数上限を拡張（追加購入）していただくようお願いいたします。</u>
----------	--

注	ストックデータは追加学習の教師データとしてご利用いただくことを目的として提供するものです。そのため、ストックデータから登録した言語資産には以下の制約があります。 ・ほかの言語資産と結合できません。 ・エクスポートできません。 ・Quick PEで翻訳メモリーとして利用できません。
---	---

- 検索条件エリア

図 10-5 検索条件エリア

- 名称
 - ドメイン/サブドメイン
 - ドキュメントタイプ/サブドキュメントタイプ
 - タグ
- TU数情報
 - **TU数上限(契約中プラン)**:組織で保有できる言語資産のTU数上限と、現在の契約プラン。TU数上限は契約プランごとに設定されるほか、拡張(追加購入)も可能です。
 - **保有中のTU数**:組織で保有している言語資産(インポート済みのストックデータを含むすべての言語資産)のTU数

使用可能TU数: TU数上限から保有中のTU数を差し引いた数。ストックデータをインポートする際の許容値の目安としてください。

注	インポートできるストックデータは 【使用可能TU数】以下のTU数のストックデータのみです。TU数が不足している場合は、保有中の言語資産を削除して使用可能TU数を増やすか、TU数上限を拡張(追加購入)していただくようお願いいたします。
---	--

- スtockデータ一覧

#	名称	言語(原文→訳文)	ドメイン/ドキュメントタイプ	タグ	最新版	更新日時	TU数	使用中	
1	自転車	ja→en	E 製造業/31 輸送用機械器具製造業/マニュアル/ユーザーマニュアル		○	2024/05/16 09:35	8,730	○	インポート
2	政令・府省令その他	ja→en	S 公務（他に分類されるものを除く）/97 国家公務/法令契約文書/政令		○	2024/05/15 19:20	8,329	○	インポート

図 10-6 スtockデータ一覧

- **名称**: スtockデータの名称
- **言語**: スtockデータの原文と訳文の言語
- **ドメイン/ドキュメントタイプ**: スtockデータに設定されたドメイン/サブドメイン/ドキュメントタイプ/サブドキュメントタイプ
- **タグ**: スtockデータに設定されたタグ
- **最新版**: 各stockデータの最新バージョンには「○」が表示されます。

注	stockデータの最新バージョンをインポートした場合、古いバージョンのstockデータとは別の言語資産となるため、<u>古いものを削除せずにインポートすると類似するTUを重複して保有することになります。</u>前回インポートしたものを最新バージョンに差し替えたい場合は、古いバージョンの言語資産を削除してから最新バージョンをインポートすることをお奨めします。※ただし、この場合、<u>古いバージョンの言語資産に対して行った変更内容は最新バージョンに引き継がれませんので、ご注意ください。</u>
----------	--

- **TU数**: スtockデータに含まれるTU数
- **使用中**: スtockデータをすでに言語資産としてインポート済みの場合、使用中のTU数が表示されます。
- **[インポート] ボタン**: クリックするとstockデータインポート画面が表示されます。表示されている内容を確認後、[インポート] ボタンからインポート処理を実行できます。

10.2.1. ドメイン、ドキュメントタイプ、タグについて

ドメイン/サブドメイン、ドキュメントタイプ/サブドキュメントタイプ、およびタグは、言語資産に設定される属性情報です。この属性情報を手掛かりに必要な言語資産を特定したり、フィルタリングやグループ化を行うことができます。

- **ドメイン、サブドメイン:** 産業の分野(業種)。ドメインを選択すると、サブドメインのプルダウンリストが自動的にフィルタリングされます。
- **ドキュメントタイプ、サブドキュメントタイプ:** 言語データの種類(用途)。ドキュメントタイプを選択すると、サブドキュメントタイプのプルダウンリストが自動的にフィルタリングされます。
- **タグ:** 語資産をラベリングする自由記入形式の文字列(キーワード)

注	これらはオプション項目のため、カスタマイズ(LAC)内での挙動には影響しません。言語資産の増加に伴ってフィルタリングやグループ化が必要な場合にご利用ください。
----------	---

10.3. 言語資産

言語資産とは

本システムにおける言語資産には「TM(翻訳メモリ)」と「用語集」の2種類があります。いずれも、**原則としては原文と訳文のペア(TU=Translation Unit)を1行としてカウントします**。言語資産は以下の3つの方法で登録することができます。詳細は後述のセクションをご確認ください。登録した言語資産は、本システムのQuick PEおよびカスタマイズ(LAC)のモデル管理で利用できます。

- (1) お客様のお手元にある言語データをインポートする。
- (2) インターネット上のテキスト(またはお客様のファイル)からAIを活用して言語データを抽出し、アラインしたデータをインポートする。
- (3) 本システムで提供されているストックデータをインポートする。

サービス	利用方法	TM (ストックデータ以外)	TM (ストックデータ)	用語集
Quick PE	用語集として選択	-	-	○
	翻訳メモリとして選択	○	-	○
カスタマイズ (モデル管理)	追加学習の教師データに利用して 追加学習モデルを作成	○	○	○
	汎用/カスタムMTモデルに設定して 用語集設定モデルを作成	-	-	○

注	本システムでサポートする言語資産の言語ペアは英日/日英のみです。
----------	----------------------------------

注	登録される言語資産のTU数は、組織ごとに設定されているTU数上限による制限の対象となります。 <u>保有している言語資産のTU数が上限を超過した場合はシステム管理者よりご連絡差し上げますので、言語資産を削除していただくか、TU数上限を拡張(追加購入)していただくようお願いいたします。</u>
----------	--

注	LACを含むプランの契約期間に登録した言語資産およびカスタム機械翻訳モデルのデータは、 <u>そのプランの契約期間終了後、一定期間が経過すると完全に削除されます。契約期間が終了する前に言語資産データをエクスポートしておくことをお奨めします。また、トライアル期間に登録した言語資産およびカスタム機械翻訳モデルのデータは、トライアル期間終了後は即時に削除されます。契約期間にデータを引き継いでご利用いただくことはできませんので、ご了承ください。</u>
----------	--

言語資産一覧

本画面には、組織内で登録されている言語資産の一覧が表示されます。条件を指定して言語資産を検索することもできます。言語資産を新たに追加するには、画面右上部の [新規登録] をクリックしてください。

- 検索条件エリア

検索条件

種類

言語資産名

ドメイン

サブドメイン

ドキュメントタイプ

サブドキュメントタイプ

☐ TMXアップロード ☐ TM変換 ☐ TMアラインメント ☐ TM生成 (AI活用)

☐ 用語集変換 ☐ 対訳用語集抽出 ☐ 用語集抽出 ☐ アラインデータ

☐ ストックデータ ☐ すべて

登録開始日

yyyy/mm/dd

～

yyyy/mm/dd

☐ LeftoverTMのみ表示

タグ

この条件で検索

検索条件をクリア

図 10-7 検索条件エリア

- 種類:「TM」または「用語集」を選択できます。
 - インポート区分:言語資産を登録した際のインポート区分(詳細は後述のセクションを参照してください)
 - 言語資産名
 - 登録開始日(UTC)
 - ドメイン、サブドメイン:言語資産に設定されているドメイン、サブドメイン
 - ドキュメントタイプ、サブドキュメントタイプ:言語資産に設定されているドキュメントタイプ、サブドキュメントタイプ
 - タグ:言語資産に設定されているタグ
- 言語資産一覧

☐ 言語資産名	インポート区分	元ファイル形式	言語(原文→訳文)	ドメイン/ドキュメントタイプ	タグ	登録開始日時	ステータス	データ量情報	編集
☐ glossary-export-2025-06-25 11111111	用語集変換	CSV	ja→en	-/-/-/-		2025/06/25 16:45	インポート完了	5行 (43文字)	
☐ 自転車	ストックデータ		ja→en	E 製造業/31 輸送用機械器具製造業/マニュアルユーザーマニュアル		2025/07/31 14:50	ストックデータインポート完了	8,730行 (329,015文字)	

図 10-8 言語資産一覧

- 言語資産名:クリックすると言語資産詳細画面が表示されます。言語資産名の下に表示されているアイコンの意味は以下のとおりです。
 - 用語集 (アイコン):言語資産の種類が「用語集」の場合に表示されます。
 - LeftoverTM (アイコン):種類が「TM」でLeftoverTM(後述)の場合に表示されます。また、言語資産名の末尾に「(LeftoverTM)」という文字列が自動的に付加されます。

- インポート区分
- **ステータス:** 言語資産のステータス(詳細は後述のセクションを参照してください)。「インポート完了」、「アライン処理完了」、「ストックデータインポート完了」の言語資産のみ、言語資産名の変更や、言語資産エディターでの原文/訳文の編集、結合や削除が可能です。また、Quick PEで用語集または翻訳メモリーとして選択できるのは「インポート完了」、「アライン処理完了」の言語資産のみです。

注	ストックデータは追加学習の教師データとしてご利用いただくことを目的として提供するものです。そのため、ストックデータから登録した言語資産には以下の制約があります。 ・ほかの言語資産と結合できません。 ・エクスポートできません。 ・Quick PEで翻訳メモリーとして利用できません。
----------	---

- **データ量情報:** 言語資産の行数(TU数)と、原文が英語の場合はワード数、日本語の場合は文字数が表示されます。元となるファイルのサイズに応じて、データ量の集計には時間がかかる場合があります。集計中は「集計中...」と表示されます。
- **編集:**  アイコンをクリックすると言語資産エディターが開きます。言語資産エディターでは以下の処理が可能です。詳細については言語資産エディター画面のユーザーヘルプをご確認ください。
 - TU(原文と訳文のペア)を1行単位で追加
 - 既存のTUの原文/訳文を編集
 - 不要なTUを削除

注	データ量情報の初期表示はインポート直後の行数です。言語資産エディターで行数を追加/削除したり、Quick PEのグループ/プロジェクトで翻訳メモリー(TM)として選択して更新(行を追加)した場合は、再集計して数値が更新されるまでしばらく時間を要する場合がありますのでご了承ください。
----------	--

10.3.1. 言語資産の登録方法とインポート区分

言語資産の登録には3つの方法をご利用いただけます。ビジネス要件、お手元の言語データの有無、言語資産の種類などに応じて選択してください。

(1) 手元にある言語データ(原文/訳文のバイリンガルファイル、原文のモノリンガルファイルなど)をインポートする方法

インポート区分は以下のとおりです。元となるファイルと言語資産の種類に応じて最適な方法を指定してください。登録される言語資産名の初期値は、元となるファイルのファイル名(拡張子を除く)となります。

※以下★はオススメ度を表します。

種類	インポート区分	説明	元となるファイル	サポートするファイル形式	処理時間	言語資産の品質
TM	TMXアップロード (※1)	翻訳メモリー(TM)をそのままTMとして登録します。変換処理を行わないため、短い処理時間で品質の高い言語資産を登録できます。	TMX形式のファイル	tmx	★★★	★★★
	TM変換	原文と訳文が対になっているバイリンガルファイル(1ファイル)からTMを作成します。	バイリンガルファイル	xliff、csv、tsv	★★	★★
	TMアラインメント (※2)	原文と訳文それぞれのモノリンガルファイル(2ファイル)からTMを作成します。アラインメント処理を行うため処理時間は長くなりますが、さまざまな形式のファイルからTMを作成することができます。原文ファイルと訳文ファイルは同じ形式としてください。	原文と訳文の各モノリンガルファイル	docx、xlsx、pptx、txt、html	★	★★
	TM生成 (AI活用) (※2, 3)	原文のモノリンガルファイル(1ファイル)のみからTMを作成します。機械翻訳エンジン(※3)により訳文を生成する処理を行うため処理時間は長くなります。元となるファイルが原文ファイルしか存在しない場合にご利用ください。インポートできるのは20,000TU(行)以下の原文ファイルです。 生成される訳文の精度は高くないため、一覧画面の [編集] 列の アイコンをクリックして言語資産エディターで内容を編集してください。	原文のモノリンガルファイル	docx、xlsx、pptx、txt、html	★	★
用語集	用語集変換 (※1)	用語集形式のファイルの内容をそのまま用語集として登録します。短い処理時間で品質の高い言語資産を登録できます。	用語集形式のファイル	xlsx、csv、tsv、tbx	★★★	★★★
	対訳用語集抽出	原文と訳文が対になっているバイリンガルファイル(1ファイル)から用語集を作成します。頻出用語を抽出する処理を行うため処理時間は長くなります。 用語抽出の精度は高くないため(用語の原文または訳文が欠けているなど)、一覧画面の [編集] 列の アイコンをクリックして言語資産エディターで内容を編集してください。	バイリンガルファイル	xliff、csv、tsv、tmx	★	★
	用語集抽出	原文のモノリンガルファイル(1ファイル)のみから用語集を作成します。頻出用語を抽出する処理を行うため処理時間は長くなります。元となるファイルが原文ファイルしか存在しない場合にご利用ください。 登録される言語資産には訳文が含まれませんので、一覧画面の [編集] 列の アイコンをクリックして言語資産エディターで内容を編集してください。	原文のモノリンガルファイル	docx、xlsx、pptx、txt、html、csv、tsv、srt、md、tmx、xliff	★	☆

注	(※1) インポート区分「TMXアップロード」「用語集変換」では、原則として元となるファイルのデータをそのままインポートするため、すべてのデータが言語資産として登録されます。ただし、元となるファイルで原文が含まれていない行が存在する場合、その行はインポート時に強制的に削除されます。そのため、元となるファイルと言語資産の行数が一致しない場合がありますのでご了承ください。
注	(※2) インポート区分「TMアラインメント」「TM生成 (AI活用)」では、[Leftover判定基準] として、元となるファイルから言語資産として採用するデータの基準を指定する必要があります。
注	(※3) インポート区分「TM生成 (AI活用)」では機械翻訳エンジン「みんなの自動翻訳@KI」を使用して訳文を生成します。インポートのたびに種別を選択することができます。
注	tmxファイルの文字コードは、 UTF-8およびUTF-16 をサポートしています。html、tbx、xliffファイルでは UTF-8のみ サポートしています。その他のテキストファイル(csv、tsv、txt、srt、md)では、文字コードがUTF-8でないファイルも内部の処理でUTF-8に変換した後にインポートされるため、任意の文字コードのファイルを使用できます(文字コードを正常に変換できない場合はエラーが発生します)。
注	「tbx」は、Term Base eXchangeの略で、用語データ向けの標準データ形式の一種です。主要なCATツールで用語集の取り扱いに使用されますが、XMLデータのためテキストエディターやXMLエディターで処理することも可能です。

(2) インターネット上のテキスト(またはお客様のファイル)からAIを活用して言語データを抽出し、アラインしたデータをインポートする方法

画面左のナビゲーションにある [\[抽出データ一覧\]](#) からご利用ください。お客様が指定したWebサイト(またはお手持のファイル)から、AI技術を活用して言語データの抽出とアラインメントを実行します。このアラインデータがお客様の言語資産として登録され、種類は「TM」となります。詳細は [\[抽出データ一覧\]](#) から各画面のユーザーヘルプを参照してください。

(3) システムで提供されているストックデータをインポートする方法

画面左のナビゲーションにある [\[ストックデータ一覧\]](#) からご利用ください。本システムで提供されているストックデータを言語資産としてインポートします。ストックデータに設定されている様々な属性情報を参考に必要なデータを選択してください。種類は「TM」となります。詳細は [\[ストックデータ一覧\]](#) から各画面のユーザーヘルプを参照してください。

注	ストックデータは追加学習の教師データとしてご利用いただくことを目的として提供するものです。そのため、ストックデータから登録した言語資産には以下の制約があります。 ・ほかの言語資産と結合できません。 ・エクスポートできません。 ・Quick PEで翻訳メモリーとして利用できません。
----------	---

言語資産のステータス

言語資産のステータスは以下の13種類のいずれかになります。

区分	ステータス	説明／必要な処理	インポート区分			
			右記以外	TM アラインメント	アラインデータ	ストックデータ
正常系	未処理	まだインポート処理が開始されていません。	○	○		
	インポート中	インポート処理中です。	○	○		
	インポート完了	インポート処理が正常に完了した状態です。 <u>言語資産として利用することができます。</u>	○	○		
	インポート結果取得中	インポート処理が完了し、結果を取得中の状態です。		○		
	アライン未処理	まだアラインメントが開始されていません。			○	
	アライン処理中	アラインメントの処理中です。			○	
	アライン処理完了	アラインメントが正常に完了した状態です。 <u>言語資産として利用することができます。</u>			○	
	ストックデータインポート未処理	まだストックデータのインポート処理が開始されていません。				○
	ストックデータインポート中	ストックデータのインポート処理中です。				○
	ストックデータインポート完了	ストックデータのインポート処理が正常に完了した状態です。 <u>言語資産として利用することができます。</u>				○
エラー系	インポートエラー	インポート処理が開始されたものの、何らかの理由により途中で失敗しました。	○	○		
	アラインエラー	アラインメントが開始されたものの、何らかの理由により途中で失敗しました。			○	
	ストックデータインポートエラー	ストックデータのインポート処理が開始されたものの、何らかの理由により途中で失敗しました。				○

言語資産の結合

複数の言語資産を結合して別の言語資産を作成することができます。一覧画面から対象の言語資産のチェックボックスをONにして、アクションボタンの[選択した項目を結合]をクリックしてください。元となるファイルの形式が異なる言語資産でも結合可能です。また、種類が異なる言語資産(TMと用語集)でも結合できます(その場合、結合された言語資産の種類は「TM」となります)。LeftoverTMも結合に利用できますので、言語資産の登録時に予期せずLeftoverTMが作成されてしまった場合は、必要に応じてメインTMと結合して利用することができます。

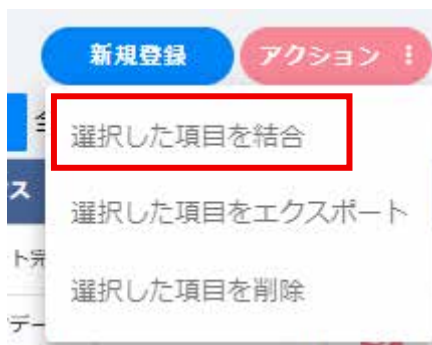


図 10-9 言語資産の結合

注	言語資産が結合されても、元の言語資産は削除されないため、データ(TU)を重複して保有することになります。保有している言語資産のTU数が上限を超過した場合、言語資産を削除していただくか、TU数上限を拡張(追加購入)していただくようお願いいたします。
---	---

言語資産のエクスポート

登録した言語資産をエクスポートすることができます。一覧画面から対象の言語資産のチェックボックスをONにして、アクションボタンの [選択した項目をエクスポート]をクリックしてください。エクスポートの処理が開始され、完了するとナビゲーションメニューにある [ダウンロード] 画面からダウンロードすることができます。言語資産のサイズによっては、エクスポートが完了するまでに時間がかかる場合がありますのでご了承ください。

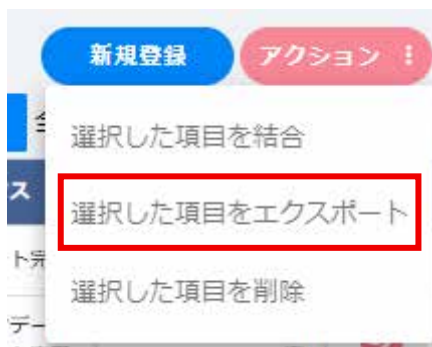


図 10-10 言語資産のエクスポート

注	種類が「TM」の言語資産をエクスポートすると、生成されるファイルの形式はTMX(.tmx)になります。一方、種類が「用語集」の場合は、エクスポート時に用語集(.tbx)とTM(.tmx)のいずれかを選択することができます。
注	言語資産のエクスポートはBusinessプラン以上でご契約中のお客様のみご利用いただけます。トライアル契約中はこの機能はご利用いただけませんので、ご了承ください。 <u>カスタマイズを含むプランの契約期間が終了するとダッシュボード画面の「カスタマイズ(LAC)」タイルが無効となり、言語資産をエクスポートしていただけなくなります。</u> 言語資産のエクスポートをご希望の場合は、Businessプラン以上の契約期間内に完了していただきますようお願いいたします。

言語資産の削除について

1つまたは複数の言語資産を選択して一括で削除することができます。一覧画面から対象の言語資産のチェックボックスをONにして、アクションボタンの [選択した項目を削除]をクリックしてください。

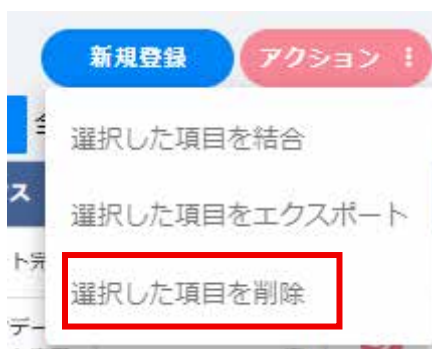


図 10-11 言語資産の削除

言語資産を削除すると以下の影響がありますのでご注意ください。

- 言語資産一覧に表示されなくなります。
- 追加学習モデルおよび用語集設定モデルを作成する際に選択できなくなります。
- **Quick PE:** 言語資産のデータが削除されると、グループ詳細画面の [LAC用語集] および [LAC翻訳メモリー] の選択画面に表示されなくなります。また、削除された言語資産を使用しているプロジェクトが存在する場合、そのプロジェクト内のファイルのエディター画面を再度開くことは可能ですが、再翻訳を実行しても該当の翻訳メモリーとのマッチング処理は行われません。

注	言語資産の削除では、該当するデータが即時に削除されます。対象となるデータのサイズに応じて処理に時間がかかる可能性があります。
----------	--

言語資産の登録にかかる時間について

言語資産登録メニューでインポートしたファイルが言語資産として登録されるまでには一定の時間を要しますのでご了承ください。処理にかかる時間は、選択した登録方法とインポート区分、元となるファイルのサイズ、ご利用のネットワーク環境などに依存します。言語資産一覧でステータスが「インポート完了」になると、言語資産名の変更や、言語資産エディターでの原文/訳文の編集、結合や削除が可能になります。

10.4. 追加学習モデル

追加学習/追加学習モデルとは

言語資産（対訳データ）を教師データとして機械翻訳学習サービスに与えて機械学習させ、特定の分野に特化した機械翻訳モデルを作成する処理を「追加学習」と呼びます（「アダプテーション」または「再学習」と呼ばれることもあります）。追加学習の結果として作成されるのが追加学習モデルです。追加学習が完了した追加学習モデルは、本システムのQuick MT/PEおよびカスタマイズ（用語集設定モデル作成）で利用できます。

サービス	利用方法	追加学習モデル
Quick MT	カスタム機械翻訳モデルの一覧で選択	○
Quick PE	カスタム機械翻訳モデルの一覧で選択	○
カスタマイズ（LAC）	用語集を適用して用語集設定モデルを作成	○

注	本システムで利用する機械翻訳学習サービスは組織ごとに選択でき、初回利用時にダッシュボードの 【機械翻訳学習サービス利用設定】 から利用を申し込む必要があります。その際に表示される 利用規約 をよくお読みいただきますよう、お願いいたします。本画面では、利用申込が完了していない（利用停止状態にある）機械翻訳学習サービスとそのモデルは、検索条件エリアおよび追加学習モデル一覧に表示されません。
----------	--

機械翻訳学習サービス利用設定

HELP

機械翻訳学習サービス	設定状況	利用開始	利用停止	申込者	
Google AutoML	未設定				利用申込
みんなの自動翻訳@KI	利用可能	2025/03/11 17:21			停止申込
Amazon Translate	未設定				利用申込

図 10-12 機械翻訳学習サービス利用設定画面

注	<u>追加学習モデルの登録には、上限があります。</u> 追加学習モデルを追加でご希望の場合はサービスメニューの[請求情報]→ [プランや上限数の変更はこちら]からお問い合わせいただくか、弊社の営業担当者までお知らせください。
----------	---

注	追加学習モデルは、組織ごとに設定されている保有可能モデル数上限による制限の対象となります。保有している追加学習モデルがすでに上限数である場合は、その旨お知らせするメッセージが表示されます。
----------	--

注	契約期間に登録した言語資産およびカスタム機械翻訳モデルのデータは、<u>契約期間終了後、一定期間が経過すると完全に削除されます</u>。契約期間が終了する前に言語資産データをエクスポートしておくことをお奨めします。また、トライアル期間に登録した言語資産およびカスタム機械翻訳モデルのデータは、<u>トライアル期間終了後は即時に削除されます</u>。契約期間にデータを引き継いでご利用いただくことはできませんので、ご了承ください。
-----------------	---

10.4.1. 追加学習モデル一覧画面の見方

本画面には、組織内で登録されている追加学習モデルの一覧が表示されます。条件を指定して追加学習モデルを検索することもできます。追加学習モデルを新たに追加するには、画面右上部の【新規登録】をクリックしてください。

- 検索条件エリア

図 10-13 検索条件エリア

- 開始日: 追加学習処理の開始日(UTC)
- 機械翻訳学習サービス: モデルの追加学習に使用したサービスを指定します。本システムでは以下の3種類の機械翻訳学習サービスを利用できます。
 - Google AutoML
 - みんなの自動翻訳@KI
- ステータス: 追加学習モデルのステータスの変化は後述のセクションを参照してください。**Quick MT/PEおよびカスタマイズ(LAC)内で利用できるのは、ステータスが「追加学習完了」になっているモデルのみです。**
- モデルの有効状態: Quick MT/PEおよびカスタマイズ(LAC)内で利用できるのは、状態が「有効」になっているモデルのみです。
- 追加学習モデル一覧
 - 追加学習モデル名: クリックすると追加学習モデル詳細画面が表示されます。
 - 機械翻訳学習サービス
 - ステータス
 - 有効: 状態が有効な場合は「○」が表示されます。
 - 開始日時/終了日時: 追加学習処理の開始/終了の日時

- 評価値: 追加学習モデルのモデル評価を実施済みの場合、4つの品質指標のうちBLEU値が表示されます。モデル評価を未実施の場合は空欄です。
- コメント: モデルの詳細画面で入力されたコメントが表示されます。

10.4.2. 追加学習モデルのステータス

追加学習モデルのステータスは以下の11種類のいずれかになります。

区分	ステータス	説明／必要な処理	みんなの自動翻訳@KI	Google AutoML
正常系	処理待ち (1/6)	まだ処理が開始されていません。	○	○
	追加学習開始中 (2/6)	追加学習を開始する準備中です。	○	○
	追加学習開始済み (3/6)	追加学習が開始されました。	○	○
	追加学習処理中 (4/6)	指定したサービスでの追加学習が進行中です。	○	○
	追加学習最終処理中 (5/6)	追加学習の処理が完了し、各機能で利用するための最終処理中です。	○	
	追加学習完了 (6/6)	追加学習の処理が完了しました。 各種機能でご利用いただけます。	○	○
削除系	追加学習モデル削除待ち	追加学習モデルの削除を実行中です。	○	○
エラー系	追加学習開始エラー(※1, 2)	何らかの理由により追加学習を開始できませんでした。	○	○
	追加学習処理エラー(※1)	指定したサービスでの追加学習が進行したものの正常に完了しませんでした。	○	○
	追加学習モデル削除エラー(※2)	追加学習モデルを削除できませんでした。	○	○
	追加学習タイムアウト(※3)	追加学習を開始して完了するまでのいずれかの処理でタイムアウトエラーが発生しました。	○	○

注	(※1)「追加学習開始エラー」および「追加学習処理エラー」の場合、 <u>回数は消費されません。</u> (追加学習の処理開始時に一時的に減算されますが、エラーが発生した時点で復活します。)
---	---

注	(※2)「追加学習開始エラー」「追加学習モデル削除エラー」となったモデルは、 <u>有効なモデルとしてカウントされません。</u> そのため、組織ごとに設定されている保有可能モデル数上限の計算からは除外されます。
---	--

注	(※3)「追加学習タイムアウト」の場合、タイムアウトが発生した処理に応じて、回数が消費される場合とされない場合があります。このステータスになった追加学習モデルの詳細については個別にお問い合わせください。
---	---

10.4.3. 追加学習モデルの削除

1つまたは複数のモデルを選択して一括で削除することができます。一覧から対象のモデルのチェックボックスをONにして、メニューの [選択した項目を削除] アイコンをクリックしてください。モデルを削除すると以下の影響がありますのでご注意ください。

- 追加学習モデルが削除され、一覧に表示されなくなります。また、その追加学習モデルに対して用語集を設定して作成した用語集設定モデルも同時に削除され、用語集設定モデル一覧に表示されなくなります。
- Quick MT: 追加学習モデルのデータが削除されると、該当する機械翻訳エンジンで選択できる追加学習モデル一覧のプルダウンリストに表示されなくなります。また、その追加学習モデルに対して用語集を設定して作成した用語集設定モデルが存在する場合、用語集設定モデル一覧に表示されなくなります。
- Quick PE: 追加学習モデルのデータが削除されると、該当する機械翻訳エンジンで選択できる追加学習モデル一覧のプルダウンリストに表示されなくなります。また、削除された追加学習モデルを選択しているプロジェクトが存在する場合、そのプロジェクト内のファイルのエディター画面を再度開くことは可能ですが、再翻訳を実行するとエラーになります。さらに、その追加学習モデルに対して用語集を設定して作成した用語集設定モデルが存在する場合、用語集設定モデル一覧に表示されなくなります。

注	追加学習モデルの削除では、該当するデータが即時に削除されます。
----------	---------------------------------

10.4.4. 追加学習モデルのモデル評価

一覧の各追加学習モデル名をクリックすると追加学習モデル詳細画面が表示され、この画面で追加学習モデルの評価を実施することができます。一覧の [評価値] 列には、4つの指標のうちBLEU値のみが表示されます。追加学習モデル詳細画面ではすべての評価値を確認できます。

モデル評価値 (学習前→学習後)			
BLEU	0.25→0.76	RIBES	0.73→0.9
NIST	4.27→7.29	WER	0.68→0.26

図 10-14 モデル評価値

「→」記号の前は追加学習に利用した機械翻訳学習サービスの汎用モデル(※)の評価値、後者は追加学習モデルの評価値です。BLUE、NIST、RIBESの3つは値が大きく、WERは値が小さく変化していると、追加学習によって効果的なカスタマイズが実施されたと解釈できます。各指標の詳しい意味については[こちらのブログ記事](#)でもご確認ください。

- BLEU(ブルー)
- NIST(ニスト)
- RIBES(ライビーズ)
- WER(ダブリュイーアール)

注	※モデル評価に使用する汎用モデルについて:機械翻訳学習サービスが「みんなの自動翻訳@KI」の場合は、追加学習モデルの登録時に選択した種別(汎用NT、特許NT、金融サービス、金融NT (IR/適時開示)、法令契約NT)の汎用モデルが使用されます。
----------	--

10.4.5. 追加学習モデル登録画面

本画面では追加学習モデルを新たに登録することができます。大まかな手順は以下のとおりです。

1. 追加学習を実施する機械翻訳学習サービスを選択します。本システムでは以下の3種類の機械翻訳学習サービスを利用できます。

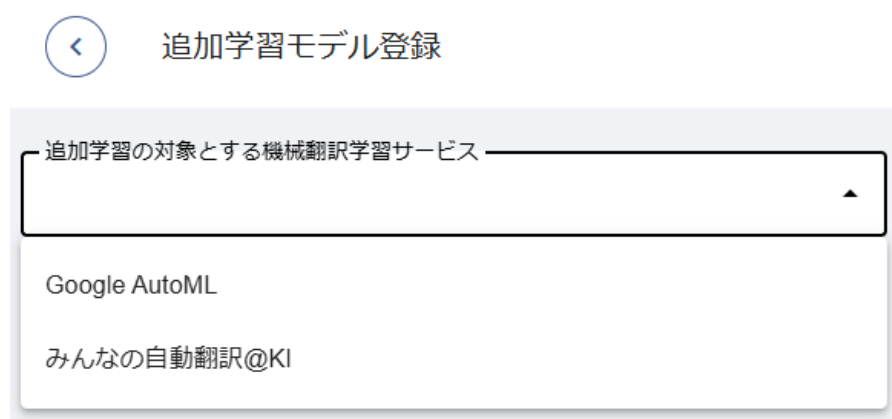


図 10-15 追加学習モデル登録

- Google AutoML
 - みんなの自動翻訳@KI
2. 追加学習に使用する教師データとして、LACで登録した言語資産を選択します。[言語資産選択] ボタンを押すと選択ウィンドウが表示されます。条件を指定して、インポートが完了している言語資産を検索することが可能です。使用する言語資産のチェックボックスをONにして [決定] ボタンを押してください。**複数の言語資産を選択できます。**
 3. 元の画面に、選択した言語資産が一覧表示されます。選択した機械翻訳学習サービスに応じて必要な項目を設定してください(後述)。※追加学習で使用しない言語資産がある場合は、左端のチェックボックスで選択してゴミ箱アイコンをクリックすると削除できます。
 4. 追加学習の際に、言語資産に含まれるインラインタグを削除する場合は、[言語資産のデータからインラインタグを削除] のチェックボックスをONにします。初期値はONです。OFFにすると、インラインタグを含んだデータ(原文/訳文)が教師データとして処理されるため、追加学習の精度が低下する可能性があります。
 5. すべての設定が完了したら [追加学習実行予約] ボタンを押してください。追加学習の実行が予約され、追加学習モデル一覧に表示されます。教師データのサイズ、機械翻訳学習サービスの負荷状況などに応じて、追加学習モデルの登録が完了するまでには数時間～数日かかる場合があります。追加学習モデルの登録が完了次第、通知メールにてお知らせいたします。

注 本システムで利用する機械翻訳学習サービスは組織ごとに選択でき、初回利用時にダッシュボードの [機械翻訳学習サービス利用設定] から利用を申し込む必要があります。その際に表示される利用規約をよくお読みいただきますよう、お願いいたします。本画面では、利用申込が完了していない(利用停止状態にある)機械翻訳学習サービスでは追加学習モデルを登録することはできません。

機械翻訳学習サービス利用設定 HELP

機械翻訳学習サービス	設定状況	利用開始	利用停止	申込者	
Google AutoML	未設定				利用申込
みんなの自動翻訳@KI	利用可能	2025/03/11 17:21			停止申込
Amazon Translate	未設定				利用申込

注 保有可能な追加学習モデル数の上限まで余裕がある場合のみ、追加学習の実行を予約することができます。登録している追加学習モデルがすでに上限数である場合は、その旨をお知らせするメッセージが表示されます。

10.4.6. 追加学習モデル登録の設定項目

選択した機械翻訳学習サービスに応じて、以下の表で「○」になっている項目を設定/選択する必要があります。各項目については表下の説明をご確認ください。

機械翻訳学習サービス	種別	訓練方法	学習設定	Stock corpora 使用有無	Corpora種別	原文訳文反転
Google AutoML			○			○
みんなの自動翻訳@KI	○	○	○			○

- 種別: みんなの自動翻訳@KIの種別(後述)
- 訓練方法: 以下の3つの方法から選択できます。

種別を選択

☒ 汎用NT
 ☐ 特許NT
 ☐ 金融サービス
 ☐ 金融NT (IR/適時開示)
 ☐ 法令契約NT
 ☐ サイエンス
 ☐ 特許審決等
 ☐ ニュース

訓練方法を選択

☐ アダプテーション+EBMT

ベースモデルをアダプテーションしたモデルを利用してEBMTを実施します。訓練データが1万文以上のときにお勧めします。

☒ アダプテーション

ベースモデルを訓練データでアダプテーションします。訓練データと似ている文の自動翻訳精度向上が見込めますが、訓練データと似ていない文の自動翻訳精度がベースモデルより低下する場合があります。

☐ EBMT

Example-based Machine Translationです。訓練データ中に入力文と似ている文がある場合には、それを参考に自動翻訳します。入力文との類似文がない場合はベースモデルで翻訳します。訓練データが1万文未満のときにお勧めします。

図 10-16 みんなの自動翻訳の種別、訓練方法載せ画面

1. **アダプテーション+EBMT**:以下2、3の方法を組み合わせたハイブリッド翻訳モデルを作成します。ノイズ(誤訳や対応ずれ)がない、1万行以上の言語資産を使用する場合におすすめします。
 2. **アダプテーション**:標準的な方法です。言語資産を使用してベースモデルに追加学習を実行します。トレーニングデータと似ている文の自動翻訳精度向上が見込めますが、トレーニングデータと似ていない文の自動翻訳精度がベースモデルより低下する場合があります。ノイズがある、1万行以上の言語資産を使用する場合におすすめします。
 3. **EBMT(Example-based Machine Translation)**:トレーニングデータ中に入力文(機械翻訳する原文)と似ている文がある場合には、それを参考に翻訳します。入力文との類似文がない場合はベースモデルで翻訳します。ノイズがない、1万行未満の言語資産を使用する場合におすすめします。
- **学習設定**:以下の4つから設定できます。選択した機械翻訳学習サービスに応じて以下の要件がありますのでご注意ください。
 - **自動設定(Google AutoMLのみ)**:指定された言語資産を自動で分割して、以下の3つの目的で使
用します。
 - **トレーニング**:実際の追加学習に使用します。
 - **調整**:過学習を防止するために使用します。
 - **テスト**:汎化性能を評価するために使用します。

注	Google AutoML:「自動設定」以外を指定する場合、設定ごとに1つ以上の言語資産を指定してください。(つまり「トレーニング」、「調整」、「テスト」の各用途の言語資産を指定する必要があります。)また、1回の追加学習で「自動設定」とそれ以外を同時に指定することはできません。 「自動設定」のみ指定する場合 • 言語資産の下限:合計1,000行(1,000行未満の言語資産で追加学習を実行しても「追加学習開始エラー」となります。) • 言語資産の上限:合計15,000,000行(1,500万行)※ 「トレーニング」、「調整」、「テスト」をそれぞれ指定する場合 • トレーニング • 言語資産の下限:3行 • 言語資産の上限:15,000,000行(1,500万行) • 調整、テスト • 言語資産の下限:100行 • 言語資産の上限:10,000行 ※ただし、言語資産の合計が100,000行(10万行)を超える場合、「自動設定」を指定すると一部の言語資産が学習に使用されないため、「トレーニング」、「調整」、「テスト」の言語資産をそれぞれ指定することをおすすめします。
----------	--

注	みんなの自動翻訳@KI:「トレーニング」の言語資産を1つ以上指定してください。「調整」と「テスト」の指定は任意ですが、指定しない場合、「トレーニング」の言語資産の中から自動的に振り分けられます。 • トレーニング • 言語資産の上限:なし。ただし、各言語資産(1ファイル)のサイズは8.0MB以下という制約があります。(8.0MB以下のファイルを複数指定することは可能です。) • 調整、テスト • 言語資産の上限:1,000行
---	---

- 原文訳文反転:言語方向を反転して使用する場合はチェックボックスをONにしてください。ONにすると、たとえば言語方向が英日(en→ja)の言語資産を日英(ja→en)の教師データとして利用することになります。**インポート区分が「TM生成 (AI活用)」の言語資産のみ、デフォルトでチェックボックスがONになりますのでご注意ください。**これは、機械翻訳して生成した文章は訳文ではなく原文として追加学習に与えるほうが学習効果が高いという研究結果に基づいています。つまり、和文を機械翻訳して英文を生成し、日英のTMを作成した場合、そのTMは英日の追加学習に利用したほうが効果が高くなります。原文訳文反転を希望しない場合はチェックボックスをOFFにしてください。

注	選択したすべての言語資産で言語方向を統一する必要があります。そのため、言語方向が逆の言語資産を選択した場合は [原文訳文反転] のチェックをONにしてください。
---	---

ヒント	少ない教師データ(小さい言語資産)で効率的に追加学習するには？ 「みんなの自動翻訳@KI」を使用して訓練方法で「EBMT」を選択すると、行数が少ない言語資産でも効果的に追加学習できることが分かっています。「トレーニング」、「調整」、「テスト」のすべてに同じ言語資産を指定して登録した追加学習モデルでもカスタマイズの効果がありますので、お試しください。
-----	--

ヒント	対訳データにノイズがある場合に追加学習するには？ 少量(1,000行程度)のノイズがない言語資産を用意し、それを「調整」に指定することで、ノイズの影響を低減できる場合があります。
-----	--

ヒント	複数の追加学習モデルの性能を比較するには？ 追加学習を実行する際の「テスト」に指定した言語資産を、追加学習モデルを評価する際にも使用してください。複数の「トレーニング」の言語資産での違いを評価するには、「テスト」に加えて「調整」にも同じ言語資産を指定してください。
-----	---

10.4.7. みんなの自動翻訳@KIの種別について

みんなの自動翻訳@KIには以下8つの種別が存在します。種別ごとの特性は以下のとおりですので、目的に応じて選択してください。

- **汎用NT**: 分野を問わず活用できるエンジンです。
- **特許NT**: 特許翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **金融サービス**: 金融サービス関連の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **金融NT (IR/適時開示)**: 金融関連のうちIR/適時開示情報の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **法令契約NT**: 法令契約関連の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **サイエンス**: 生物・医学分野を中心とした学術論文などに適した分野の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **特許審決等**: 特許関連の中でも特許出願の拒絶理由通知書や審決情報等の翻訳向けに構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **ニュース**: 新語、新トピックや時事の話題を含むニュースの翻訳向けに構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。

注	NTはニューラルネットワークを利用した第2世代エンジンを意味します。どのエンジンを指定するか迷う場合は、「汎用NT」を選択することをお奨めします。
----------	---

10.4.8. 追加学習モデルの追加

追加学習モデルを追加でご希望の場合はサービスメニューの[請求情報]→[プランや上限数の変更はこちら]からお問い合わせいただくか、弊社の営業担当者までお知らせください。

10.4.9. モデル数の上限について

組織において保有中の追加学習モデルの数がすでに上限数である場合は、追加学習の実行を予約できません。以下いずれかの方法で、上限まで余裕がある状態にしてください。

プランで追加学習できる回数が決まっていますので、ご注意ください。

- **保有中の追加学習モデルを削除する**: ナビゲーションメニューの [追加学習モデル一覧] に移動し、保有中のモデルを削除してください。
- **追加学習モデルを追加または上限を増やす**: モデルの削除を希望しない場合は、回数や上限数を増やすことも可能です。お手数ですがXMATサポートの問い合わせ申込フォーム(https://ldxlab.io/xmat_support)でご要望いただくか、弊社の営業担当者までお知らせください。

注	組織にて保有中の追加学習モデル数はメニューの [追加学習モデル一覧] でご確認いただけます。
----------	--

10.5. 用語集設定モデル

用語集設定モデルとは

機械翻訳学習サービスの標準モデルや本システムで登録した追加学習モデルを用語集でラッピングすることで、用語集で定めた訳語を自動的に出力する処理を、本システムでは「用語集設定」と呼びます。一般的には「用語集ラッピング」と呼ばれることもあります。用語集設定の結果として作成されるのが用語集設定モデルです。用語集が設定されたモデルは、本システムのQuick MT/PEで利用できます。

サービス	利用方法	追加学習モデル
Quick MT	カスタム機械翻訳モデルの一覧で選択	○
Quick PE	カスタム機械翻訳モデルの一覧で選択	○

注	用語集設定モデルは、組織ごとに設定されている保有可能モデル数上限による制限の対象となります。登録している用語集設定モデルがすでに上限数である場合は、その旨お知らせするメッセージが表示されます。
----------	--

注	LACを含むプランの契約期間に登録した言語資産およびカスタム機械翻訳モデルのデータは、 <u>そのプランの契約期間終了後、一定期間が経過すると完全に削除されます。契約期間が終了する前に言語資産データをエクスポートしておくことをお奨めします。また、トライアル期間に登録した言語資産およびカスタム機械翻訳モデルのデータは、トライアル期間終了後は即時に削除されます。契約期間にデータを引き継いでご利用いただくことはできませんので、ご了承ください。</u>
----------	---

10.5.1. 用語集設定モデル一覧画面の見方

本画面には、組織内で登録されている用語集設定モデルの一覧が表示されます。条件を指定して用語集設定モデルを検索することもできます。用語集設定モデルを新たに追加するには、画面上部の **[+ 新規登録]** をクリックしてください。

- 検索条件エリア

用語集設定モデル一覧 HELP

検索条件

用語集設定モデル名

追加学習モデル名

開始日

yyyy/mm/dd

~

yyyy/mm/dd

機械翻訳学習サービス

▼

ステータス

▼

モデルの有効状態

▼

この条件で検索

検索条件をクリア

図 10-17 検索条件エリア

- 開始日: 用語集設定処理の開始日 (UTC)
- 機械翻訳学習サービス: モデルの用語集設定に使用したサービスを指定します。本システムでは以下の3種類の機械翻訳学習サービスを利用できます。
 - Google AutoML
 - みんなの自動翻訳@KI
 - Amazon Translate
- ステータス: 用語集設定モデルのステータスの変化は後述のセクションを参照してください。**Quick MT/PEで利用できるのは、ステータスが「用語集設定完了」になっているモデルのみです。**
- モデルの有効状態: **Quick MT/PEで利用できるのは、状態が「有効」になっているモデルのみです。**

- 用語集設定モデル一覧

新規登録

選択した項目を削除

表示件数

20

▼

1/1ページ

移動

全 12 件中 1 件 ~ 12 件

<

>

用語集設定モデル名	機械翻訳学習サービス	追加学習モデル名	有効	開始日時	終了日時	ステータス	評価値	コメント
☐ 用語集設定モデル_20250703112511	みんなの自動翻訳@KI		○	2025/07/03 11:25	2025/07/03 11:26	用語集設定完了 (5/5)		
☐ 特許明細書用 日→英 20250714	みんなの自動翻訳@KI		○	2025/04/18 13:39	2025/04/18 13:41	用語集設定完了 (5/5)		
☐ equipment装置 特許用語集設定モデル	みんなの自動翻訳@KI		○	2025/05/20 17:44	2025/05/20 17:47	用語集設定完了 (5/5)		

図 10-18 用途集設定モデル一覧

- **用語集設定モデル名**: クリックすると用語集設定モデル詳細画面が表示されます。
- **機械翻訳学習サービス**: 利用しているエンジン名が表示されます。
- **追加学習モデル名**: 追加学習モデルに対して用語集設定を行った場合は、対象の追加学習モデル名が表示されます。標準モデルを使用した場合は空欄です。
- **有効**: 状態が有効な場合は「○」が表示されます。
- **開始日時/終了日時**: 用語集設定処理の開始/終了の日時
- **ステータス**: 後述の「用語集設定モデルのステータス」にて説明
- **評価値**: 用語集設定モデルのモデル評価を実施済みの場合、4つの品質指標のうちBLEU値が表示されます。モデル評価を未実施の場合は空欄です。標準モデルに対して用語集を設定した場合は2つ、追加学習モデルに対して用語集を設定した場合は3つの評価値が表示されます。
- **コメント**: モデルの詳細画面で入力されたコメントが表示されます。

注	2022年12月時点では、 <u>LACで追加学習を実行し、さらに用語集を設定できる機械翻訳学習サービスは「Google AutoML」および「みんなの自動翻訳@KI」です。</u> 「Amazon Translate」を利用して用語集設定を行う場合は標準モデルをご利用ください。今後、追加学習と用語集設定の両方が可能な機械翻訳学習サービスを順次、拡大していく予定です。
----------	---

10.5.2. 用語集設定モデルのステータス

用語集設定モデルのステータスは以下の10種類のいずれかになります。

区分	ステータス	説明／必要な処理	Google AutoML	みんなの自動翻訳@KI	Amazon Translate
正常系	処理待ち (1/5)	まだ処理が開始されていません。	○	○	○
	用語集設定中 (2/5)	用語集設定の処理を開始しようとしています。	○	○	○
	用語集設定開始済み (3/5)	用語集設定の処理が開始されました。		○	
	用語集設定処理中 (4/5)	指定したサービスでの用語集設定が進行中です。		○	
	用語集設定完了 (5/5)	用語集設定の処理が完了しました。各種機能でご利用いただけます。	○	○	○
	用語集設定モデル削除待ち	用語集設定モデルの削除を実行中です。	○	○	○
削除系	用語集設定エラー (※1)	何らかの理由により用語集設定の処理を開始できませんでした。	○	○	○
エラー系	用語集設定処理エラー	指定したサービスでの用語集設定が進行したものの正常に完了しませんでした。		○	
	用語集設定モデル削除エラー(※1)	用語集設定モデルを削除できませんでした。	○	○	○
	用語集設定タイムアウト (※2)	用語集設定を開始して完了するまでのいずれかの処理でタイムアウトエラーが発生しました。		○	

注	(※1)「用語集設定エラー」「用語集設定モデル削除エラー」となったモデルは、 <u>有効なモデルとしてカウントされません</u> 。そのため、組織ごとに設定されている保有可能モデル数上限の計算からは除外されます。
----------	--

注	(※2)「用語集設定タイムアウト」になった用語集設定モデルの詳細については個別にシステム管理者までお問い合わせください。
----------	--

10.5.3. 用語集設定モデルの削除

1つまたは複数のモデルを選択して一括で削除することができます。一覧画面から対象のモデルのチェックボックスをONにして、一括処理メニューの [削除] アイコンをクリックしてください。モデルを削除すると以下の影響がありますのでご注意ください。

- LAC(カスタム機械翻訳管理メニュー): 用語集設定モデル一覧に表示されなくなります。
- Quick MT: 用語集設定モデルのデータが削除されると、該当する機械翻訳エンジンで選択できる用語集設定モデル一覧のプルダウンリストに表示されなくなります。
- Quick PE: 用語集設定モデルのデータが削除されると、該当する機械翻訳エンジンで選択できる用語集設定モデル一覧のプルダウンリストに表示されなくなります。また、削除された用語集設定モデルを選択しているプロジェクトが存在する場合、そのプロジェクト内のファイルのエディター画面を再度開くことは可能ですが、再翻訳を実行するとエラーになります。

注	用語集設定モデルの削除では、該当するデータが即時に削除されます。
---	----------------------------------

10.5.4. 用語集設定モデルのモデル評価

一覧の各用語集設定モデル名をクリックすると用語集設定モデル詳細画面が表示され、この画面で用語集設定モデルの評価を実施することができます。一覧の [評価値] 列には、4つの指標のうちBLEU値のみが表示されます。用語集設定モデル詳細画面ではすべての評価値を確認できます。

モデル評価値 (学習前→学習後)			
BLEU	0.25→0.76	RIBES	0.73→0.9
NIST	4.27→7.29	WER	0.68→0.26

図 10-19 モデル評価値

「→」記号の前は用語集設定に利用した機械翻訳学習サービスの標準モデル(※)の評価値、後者は用語集設定モデルの評価値です。BLUE、NIST、RIBESの3つは値が大きく、WERは値が小さく変化していると、追加学習によって効果的なカスタマイズが実施されたと解釈できます。各指標の詳しい意味については[こちらのブログ記事](#)でもご確認いただけます。

- BLEU(ブルー)
- NIST(ニスト)
- RIBES(ライビーズ)
- WER(ダブリュイーアール)

注	※モデル評価に使用する標準モデルについて: 機械翻訳学習サービスが「みんなの自動翻訳@KI」の場合は、用語集設定モデルの登録時に選択した種別(汎用NT、特許NT、金融サービス、金融NT (IR/適時開示)、法令契約NT)の標準モデルが使用されます。
---	--

10.5.5. 用語集設定モデル登録画面

本画面では用語集設定モデルを新たに登録することができます。大まかな手順は以下のとおりです。

1. 用語集設定を行う対象のモデルの種類を選択します。
 - **標準機械翻訳モデル**: 機械翻訳学習サービスの標準モデルに対して用語集を設定します。
 - **追加学習モデル**: カスタマイズ(LAC)で登録した追加学習モデルに対して用語集を設定します。
2. 手順1で標準機械翻訳モデルを選択した場合は、機械翻訳学習サービスを選択します。本システムでは以下の3種類の機械翻訳学習サービスを利用できます。「みんなの自動翻訳@KI」を選択した場合は種別(後述)を1つ指定してください。
 - Google AutoML
 - みんなの自動翻訳@KI
 - Amazon Translate
3. 手順1で追加学習モデルを選択した場合は、組織内に登録されている追加学習モデルから選択します。[追加学習モデル選択] ボタンを押すと選択ウィンドウが表示されます。条件を指定して、追加学習が完了しているモデルを検索することが可能です。使用する追加学習モデルのラジオボタンをONにして [決定] ボタンを押してください。選択できる追加学習モデルは1つだけです。
4. 対象のモデルが決定したら、モデルに設定する用語集を選択します。[用語集選択] ボタンを押すと選択ウィンドウが表示されます。条件を指定して、インポートが完了している言語資産(用語集のみ)を検索することが可能です。使用する用語集のラジオボタンをONにして [決定] ボタンを押してください。選択できる用語集は1つだけです。追加学習モデルを選択した場合は同じ言語方向の用語集を設定してください。言語方向が逆の用語集を選択した場合は、次の手順で【原文訳文反転】のチェックボックスをONにしてください。

注	「みんなの自動翻訳@KI」を使用する場合、用語集に含まれるTU(対訳)の原文または訳文が128文字を超えていると、処理エラーとなり用語集設定モデルを登録できません。言語資産一覧画面から該当する用語集を言語資産エディターで開いて、128文字を超える原文/訳文のTUが含まれていないことをご確認ください。128文字を超える原文/訳文がある場合は、128文字以下となるよう編集するか該当するTUを削除してから、用語集設定モデルの登録をお試しください。
----------	--

5. 元の画面に、選択した用語集が表示されます。用語集の言語方向を反転させて使用する場合は、[原文訳文反転] のチェックボックスをONにしてください。
6. すべての設定が完了したら [用語集設定予約] ボタンを押してください。用語集設定が予約され、用語集設定モデル一覧に表示されます。用語集のサイズ、機械翻訳学習サービスの負荷状況などに応じて、用語集設定モデルの登録が完了するまでには数時間かかる場合があります。

注	保有可能な用語集設定モデル数の上限まで余裕がある場合のみ、用語集設定を予約することができます。登録している用語集設定モデルがすでに上限数である場合は、その旨をお知らせするメッセージが表示されます。
----------	--

10.5.6. みんなの自動翻訳@KIの種別について

みんなの自動翻訳@KIには以下8つの種別が存在します。種別ごとの特性は以下のとおりですので、目的に応じて選択してください。

- **汎用NT**: 分野を問わず活用できるエンジンです。
- **特許NT**: 特許翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **金融サービス**: 金融サービス関連の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **金融NT (IR/適時開示)**: 金融関連のうちIR/適時開示情報の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **法令契約NT**: 法令契約関連の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **サイエンス**: 生物・医学分野を中心とした学術論文などに適した分野の翻訳専用に構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **特許審決等**: 特許関連の中でも特許出願の拒絶理由通知書や審決情報等の翻訳向けに構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。
- **ニュース**: 新語、新トピックや時事の話題を含むニュースの翻訳向けに構築され、特有の用語や言い回しにも対応したエンジンです。

注	NTはニューラルネットワークを利用した第2世代エンジンを意味します。どのエンジンを指定するか迷う場合は、「汎用NT」を選択することをお奨めします。
----------	---

10.5.7. 用語集内で重複する用語について

用語集には重複する用語(対訳)を登録することができますが、用語集として参照する場合でも、用語集設定モデルに組み込む場合でも、原文に対する訳文は一意とすることをお奨めします。ただし、以下のように、単語ごとの訳文と複合語の訳文を変えたいケースも考えられます。

英語	日本語
asset	資産
management	管理
asset management	アセットマネジメント

このような対訳を含む用語集で用語集設定モデルを作成した場合、そのモデルを利用して原文(この場合は英文)を機械翻訳すると、原文の長さが長い用語が優先して訳文が採用されます。上記例の場合、原文に"asset management"が登場すると訳文としては「アセットマネジメント」が優先して採用されるため、この原文が「資産管理」と出力されることはありません。

注	用語集内の対訳はインポート後に言語資産エディターで編集できます。その際に重複を検出することも可能ですので、ご利用ください。用語集内に重複があっても後続の処理上は問題ありません。
---	--

注	本システムで想定している用語集は、専門用語や製品名、固有名詞など、文脈で変化することがあまりない用語を集めたデータです。たとえば、英日の用語集を作成する場合、単数形と複数形、2つの原文(用語)を別の対訳として登録しておけば訳文を統一できますが、逆方向である日英の用語集の場合、1つの原文に2つの訳文を登録しても、機械翻訳において自動的に使い分けられることはありません。文脈に応じて単数形/複数形が変わるような用語は用語集に登録しないほうがよいと言えます。
---	---

10.5.8. モデル数の上限について

組織において保有中の用語集設定モデルの数がすでに上限数である場合は、用語集の設定を予約できません。以下いずれかの方法で、上限まで余裕がある状態にしてください。

- **保有中の用語集設定モデルを削除する:** ナビゲーションメニューの [用語集設定モデル一覧] に移動し、保有中のモデルを削除してください。上限内であれば回数制限はありません。
- **用語集設定モデル上限を増やす:** モデルの削除を希望しない場合は、上限数を増やすことも可能です。お手数ですがXMATサポートの問い合わせ申込フォーム (https://ldxlab.io/xmat_support) でご要望いただくか、弊社の営業担当者までお知らせください。

注	組織にて保有中の用語集設定モデル数はナビゲーションメニューの [用語集設定モデル一覧] でご確認ください。
---	---

付録 正規表現のサンプル

各項目のルールは正規表現で指定する必要があります。以下にサンプルとして代表的な正規表現を挙げますが、必要に応じて Microsoft の サ イ ト (<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference>)等を参照してください。

検索対象	入力する文字列	用途例
全角数字	[0-9]	数字は半角のみというルールにしたい場合に、全角の数字を検索する
全角スペース	[]	スペースは半角のみというルールにしたい場合に、全角のスペースを検索する
連続した全角スペース	¥u3000+	連続した全角スペースを検索する
中黒で区切られたカタカナ語	[ア-ヴー]+(・[ア-ヴー])+	中黒で区切られたカタカナ語を検索する
連続した全角英数字	[O-9A-Za-z]+	連続した全角英数字を検索する

注	本システムでは.NETおよびJavaScriptの正規表現エンジンを利用しております。あるアプリケーションで有効な正規表現であっても、本システムでは利用できない場合があります。ご了承ください。
----------	--